シンポジウム

「大学入試におけるコロナ対策 令和3年度入試の舞台裏」_{報告書}



令和 4(2022)年 3月

独立行政法人 大学入試センター 研究開発部

この報告書は、令和 3(2021)年 12 月 19 日に実施されたシンポジウム『[プレイバック座 談会]大学入試におけるコロナ対策: 一令和 3 年度入試の舞台裏一』の講演内容と資料を まとめたものです。

令和 2(2020)年来,世界的な COVID-19 の感染拡大は,私たちの仕事や,暮らしの形を大きく変えました。そして,わが国の大学にとっても,教育,研究,そして「入試のあり方」そのものを,大きく揺さぶりました。

令和 2(2020)年の 3 月の段階で,既に北海道の国立大学では,新型コロナの感染拡大を受けて,一般入試の後期日程の中止を決断したところがありました。

そして、年度が明けて、令和 2(2020)年 4 月の 1 回目の緊急事態宣言の下では、大学への立ち入り制限なども行われました。対面での授業が行えなくなったので、急遽、オンラインでの遠隔授業を実現するための体制を整える必要がありました。不意に降ってわいたオンライン授業のために、教員には新たに教材を作成する負担が、重くのしかかりました。また、受講する学生が、一挙にネット接続してくるので、オンデマンドの授業コンテンツを管理、配信する情報インフラの整備・拡張も、同時にもとめられました。

さらに根源的には、授業がはじまる直前の 3 月まで高校生だった、まだ大学に一度も足を踏み入れていない 1 年生の学生に対して、身の回りにオンライン授業にアクセスできる機器や環境があるかどうかを尋ねるところから、一歩一歩、進めなければなりませんでした。

その中で、入試に関しては、オープン・キャンパス、高大連携事業といった、大学広報のあり方にも、様々な工夫がもとめられることになりました。さらに、実技や面接を伴うことが多い学校推薦型選抜や、総合型選抜では、ある意味、ぶっつけ本番で、オンライン方式の入試を行うケースもありました。刻々と変わる状況の中で、まさに走りながら考えることを与儀なくされました。

そして、令和 3(2021)年 1 月、2 回目の緊急事態宣言の真っただ中で、感染防止に向けた緊張の中、はじめての「大学入学共通テスト」が実施されました。この並大抵でない緊迫した情勢の中で、試験の運営・実施を完遂した大学関係者のご尽力には、ただただ頭が下がるばかりです。

このように令和 2(2020)年度は、日増しに猛威を振るうコロナ禍の中で、個々の大学は、受験生を守りながら、入学者の選抜を行わなければならない、という、厳しい難題と向き合って、苦悩してきました。このシンポジウムでは、その経緯を、2020 年度のカレンダーを、改めてめくり直す形で、時間の経過に沿って振り返ります。

令和 3(2021)年度の入試の,各大学の個別学力検査においては,早期に 2 次試験の中止を 決定した大学,感染状況の様子を見ながら実施の可否を見極めようとした大学,試験時間の 短縮、内容の変更を行った大学など、様々な対応が取られました。奇しくも、個々の大学の裁量・決断に委ねられているものが、いかに大きいかを目の当たりにすることになりました。このシンポジウムでは、全てが初めての状況の中で、それぞれの大学がそれぞれに置かれた環境・条件の中で、何を最も大切だと考えて、どんな決断をしたのかを振り返ります。その中で、大学入試の中で守るべきものは何なのかを、改めて見つめ直して行きます。そして、そこで考え抜いたこと、それを、まだ見ぬ危機への対応のための、体制の構築を図る手がかりにしていければ、と願っているところです。

さて、このシンポジウムの開催に至る経緯です。近年、大学入試センターの研究開発部には、センターの外の研究者と連携して、個別大学の入試の支援を行う、という、ナショナル・センターとしての、新しいミッションが加わりました。つい、その矢先に、コロナ禍が訪れました。そこで、令和 2(2020)年 6 月、研究開発部は、『新型コロナウイルス禍における大学入試の在り方を考える』というテーマの「緊急オンライン・フォーラム」を企画しました。

そこには5つの大学から、入試センターにご縁があるアドミッションに携わる先生方に、ご参加いただきました。当初は、情報交換から生まれた知恵を、積極的に発信する予定でした。しかし、各大学の検討段階での試案などが、そのまま一人歩きするようなことがあると、社会的な混乱も予想されるということで、そこでの議論のやりとりは、まずは非公開で進めることとなりました。そして、1年間、四半期ごとに計4回、その時々の課題を、率直に出し合って、緊張感を持った話し合いがなされました。それは、大学入試センターのスタッフにとっても、個別大学の入試業務と並走しながら、実際の入試現場の戸惑いや悩みに直接触れる貴重な経験となりました。

その緊急フォーラムに参加したメンバーが、このシンポジウムの講演メンバーです。今回、 情報の発信という当初の目的を、ようやくシンポジウムの開催という形で実現することが できました。登壇メンバーは次の通りです。

> 東北大学・高度教養教育・学生支援機構 倉元直樹 先生 名古屋大学・教育基盤連携本部アドミッション部門 石井秀宗 先生 名古屋工業大学大学院・工学研究科 林 篤裕 先生 愛媛大学・四国地区国立大学連合アドミッションセンター 中村裕行 先生 九州大学・アドミッションセンター 立脇洋介 先生

現在,このメンバーに,東京大学・高大接続研究開発センターの植阪友理先生を加えた布陣で,大学入試センター理事長裁量経費による調査研究プロジェクト(通称:大学入試の危機対応)¹が進められています。

このシンポジウムではさらに、大学入試センターと個別大学の新たなタイアップにも挑戦しています。このシンポジウムのプログラムの内容・構成は、大学入試センターの研究プロジェクトが共催で担当しています。一方、会の実施と運営は、東北大学の科研プロジェクト(通称:入試科研 2)² が主催で担当しました。東北大学の宮本友弘先生の指揮の下、久保沙織先生、南紅玉先生、科研事務局の竹浪綾子さんの科研チームがその実施を支えました。

その土台の上で、前半の司会を大学入試センター研究開発部の寺尾尚大先生が、後半討論の司会進行を、佐賀大学・アドミッションセンター長の西郡大先生が担当しました。とてもよく整理された前半の進行は、令和 2(2020)年度のコロナ禍の大学入試を、時系列で振り返って理解する上でも有効でした。また、後半の討論は、非常事態に直面した時の大学入試のあり方について、じっくりと考えさせられるものでした。そして全体として、コロナ禍での大学入試の実情を切り取った稀有な記録になっています。

このシンポジウムの記録が、大学の入試を担う方々にとって、COVID-19 の災禍にとどまらず、まだ見ぬ危機に立ち向かう体制構築を考える上での、一助とならんことを願っています。

- ¹ 令和 3 (2021)~4 (2022)年度 大学入試センター 理事長裁量経費 (調査研究) 「大学入試をめぐる危機対応の体制構築にむけて —COVID-19 の災厄を越えて—」 (研究代表者: 内田照久)
- ² 令和 3 (2021) ~ 7 (2026) 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の入試設計のための総合的大学入試研究」 (課題番号 21H04409, 研究代表者: 倉元直樹)

はじめ	(= ·····				····· i
プレイ	バック座談会「大				
		令和3年度入	試の舞台裏」		3
座談会	除に先立って:令和 3	年度入試をめぐる	る状況の振り返り	l)	11
第1期	2020.4~2020.6				17
第2期	2020.7~2020.9				29
第3期	2020.10~2020.12				45
第4期	2021.1~2021.3				57
総括	緊急事態下の各大学	の入試を俯瞰して	こわかること		69
		大学	入試センター 研	究開発部	内田照久
		大学	入試センター 研	究開発部	寺尾尚大
		東北大学高	度教養教育 学生	支援機構	倉元直樹
	名古屋	大学 教育基盤連携	長本部アドミッシ	ョン部門	石井秀宗
		名古屋工業	美大学 大学院 工	学研究科	林 篤裕
	愛媛大学 四[国地区国立大学連合	aアドミッション [・]	センター	中村裕行
		九州大学	アドミッション・	センター	立脇洋介
		佐賀大学	アドミッション	センター	西郡 大

資料編

シンポジウムのアンケート結果	と実施運営のバックヤード 85
	東北大学 高度教養教育 学生支援機構 宮本友弘
	東北大学 高度教養教育 学生支援機構 久保沙羅
	東北大学 高度教養教育 学生支援機構 南 紅田
プレイバック座談会 進行表	101
	大学入試センター 研究開発部 寺尾尚大
関連資料	

プレイバック座談会 大学入試におけるコロナ対策 令和3年度入試の舞台裏

独立行政法人 大学入試センター 研究開発部

寺尾:

視聴者の皆様,こんにちは。定刻となりましたので、「プレイバック座談会 大学入試におけるコロナ対策 令和3年度入試の舞台裏」を始めたいと思います。

前半の司会を務めさせていただきます、大学入試センター研究開発部の寺尾です。どう ぞよろしくお願いいたします。

本日は、この座談会を御視聴いただき、どうもありがとうございます。ぜひ、コロナ禍で苦悩した令和3年度入試のリアルを皆様と一緒に共有したいと思います。

趣旨説明

内田 照久

大学入試センター研究開発部 教授

初めに、大学入試センター研究開発部の内田より本座談会の趣旨説明をさせていただきます。内田先生、よろしくお願いいたします。

内田:

大学入試センター研究開発部の内田です。本日は「プレイバック座談会 大学入試におけるコロナ対策 令和3年度入試の舞台裏」のシンポジウムに御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、昨年来の世界的なCOVID-19の感染拡大は私たちの仕事や暮らしの形を大きく変えました。そして、我が国の大学にとっても、教育、研究、そして、入試の在り方そのものを大きく揺さぶりました。

昨年,2020年は日増しに猛威を振るうコロナ禍の中で,個々の大学は受験生を守りながら入学者の選抜を行わなければならないという厳しい難題と向き合って苦悩してきました。このシンポジウムでは,その経緯を2020年度のカレンダーをめくり直しながら時間の経過に沿って振り返ります。

昨年の入試の個別学力検査については、早期に2次試験の中止を決定した大学、感染状況の様子を見ながら実施の可否を見極めようとした大学、試験時間の短縮、内容の変更を行った大学など様々な対応が取られました。

奇しくも個々の大学の裁量、決断に委ねられているものが、いかに大きいかを目の当たりにしました。全てが初めての状況の中で、それぞれの大学がそれぞれに置かれた環境条件で、何が最も大切だと考えて、どんな決断をしたのかを振り返ります。そこから、大学入試の中で守るべきものは何なのかを改めて見つめ直します。そして、そこで考え抜いたことを、まだ見ぬ危機への対応のための体制の構築に向けた手がかりにしていければと願っております。

さて、今回のシンポジウムに至る経緯です。近年、大学入試センターの研究開発部には、 センターの外の研究者と連携して個別大学の入試の支援を行うという、ナショナルセンタ ーとしての新しいミッションが加わりました。ついその矢先にコロナ禍が訪れました。

そこで、2020年の6月、入試センターの研究開発部は、「新型コロナウイルス禍における大学入試の在り方を考える」というテーマの緊急オンラインフォーラムを企画しました。 そこには5つの大学から、入試センターに御縁があるアドミッションに携わる先生方に御参加をいただきました。

当初は、情報交換から生まれた知恵を積極的に発信する予定でした。しかし、各大学の検討段階での試案などがそのまま独り歩きするようなことがあると、社会的な混乱も予想されるということで、そこでの議論のやり取りは、まずは非公開とすることで進めることになりました。

そして1年間、四半期ごとに計4回、その時々の問題を率直に出し合って緊張感を持った話し合いがなされました。それは入試センターのスタッフにとっても、個別大学の入試業務と並走しながら実際の入試現場の戸惑いや悩みに直接触れるという貴重な経験になりました。

その緊急フォーラムに参加したメンバーが今日の座談会の講演メンバーになります。今回、情報の発信という当初の目的をこのシンポジウムの形で実現できることになりました。 メンバーを御紹介いたします。

登壇者紹介

登壇者

倉元 直樹 (東北大学高度教養教育・学生支援機構教授)

林 篤裕(名古屋工業大学大学院工学研究科教授)

石井 秀宗(名古屋大学教育基盤連携本部アドミッション部門 部門長)

中村 裕行 (愛媛大学・四国地区国立大学連合アドミッションセンター 准教授)

立脇 洋介 (九州大学アドミッションセンター准教授)

趣旨説明

内田 照久 (大学入試センター研究開発部 教授) 寺尾 尚大 (大学入試センター研究開発部 助教) 西郡 大 (佐賀大学アドミッションセンター長)

東北大学高度教養教育・学生支援機構 倉元直樹先生,愛媛大学四国地区国立大学連合 アドミッションセンター 中村裕行先生,名古屋工業大学大学院工学研究科 林篤裕先生, 九州大学アドミッションセンター 立脇洋介先生,名古屋大学会場から名古屋大学教育基 盤連携本部アドミッション部門 石井秀宗先生です。

石井:

サテライト会場の石井です。よろしくお願いします。

内田:

現在、このメンバーに東京大学高大接続研究開発センターの植阪友理先生を加えた布陣で、大学入試センターの理事長裁量経費による調査研究プロジェクトを進めているところです。

個別大学との新たなタイアップの試み

主催:シンポジウム実施運営

科学研究費助成事業(科学研究費補助金)基盤研究(A)課題研究21H04409

「コロナ禍の下での大学入試政策及び 個別大学の入試設計のための総合的大学入試研究」

共催:プログラム製作・構成

令和3年度 大学入試センター理事長裁量経費(調査研究)

「大学入試をめぐる危機対応の体制構築に向けて

-COVID19の災厄を越えて一」

また、今回、個別大学との新たなタイアップにも挑戦しています。このシンポジウムの プログラムの内容、構成は入試センターのプロジェクトが、会の実施運営は東北大学の科 研プロジェクトが担当しています。今、この瞬間も東北大学の宮本先生の下、御覧のスタ ッフが支えてくださっています。

シンポジウム実施運営本部

(ライブ配信会場でお力添えいただいている方々)

実施本部長: 東北大学・高度教養教育 学生支援機構・ 教授 宮本 友弘

東北大学・高度教養教育 学生支援機構・准教授 久保 沙織

東北大学・高度教養教育 学生支援機構・ 助教 南 紅玉

横浜国立大学・教育学部・准教授

東北大学・科研プロジェクト 事務局

久保 沙織 南 紅玉 鈴木 雅之

竹浪 綾子

この土台の上で,前半の司会を大学入試センター研究開発部の寺尾尚大先生が,後半討論の進行を佐賀大学アドミッションセンター長の西郡大先生がこの席で担当されます。

それでは、このシンポジウムが実り多いものになることを願っております。司会の寺尾 先生にお返しします。

寺尾:

内田先生、どうもありがとうございました。

趣旨説明にもありました緊急オンラインフォーラムにつきまして, 文部科学省の施策や 当センターの試験実施方針に影響を持つものではなかった点, あらかじめ御承知おきくだ さい。

座談会に先立って:令和3年度入試をめぐる状況の振り返り

座談会

プレイバック座談会の視聴者の皆様へ

- ・登壇者との質疑応答を中心にして展開します。
 - 登壇者個別の独立した発表時間は、設けない予定です。
- ・ZoomウェビナーのQ&A・チャット機能は使いません。
 - ・座談会のあとの情報交流 (Zoomミーティングルームを使用) の時間に, まとめてご質問をお伺いします。

よろしければ, 先生方に聞いてみたいことをお手元で 書き留めていただき, 情報交流の時間に積極的にご質問くだ さい。

寺尾:

プレイバック座談会の中身に入る前に, 視聴いただくに当たっての注意事項について説明させていただきます。

1つ目は、座談会の進め方についてです。この座談会は登壇者との質疑応答を中心に進めてまいります。個別の御発表の時間はございませんので、この点、御理解のほどをどうぞよろしくお願いいたします。

2つ目は、視聴者の皆様からの御質問についてです。御質問につきましては、情報交流の時間にまとめてお受けいたしますので、もし、登壇者の先生方への御質問がございましたらお手元で書き留めていただき、15時10分頃からの情報交流で御質問いただければと思います。

なお、この座談会は一部の登壇者、司会者が会場に参集してお届けしておりますが、話者の間にアクリル板を設置する等、会場内では感染対策を徹底しております点、お知らせいたします。

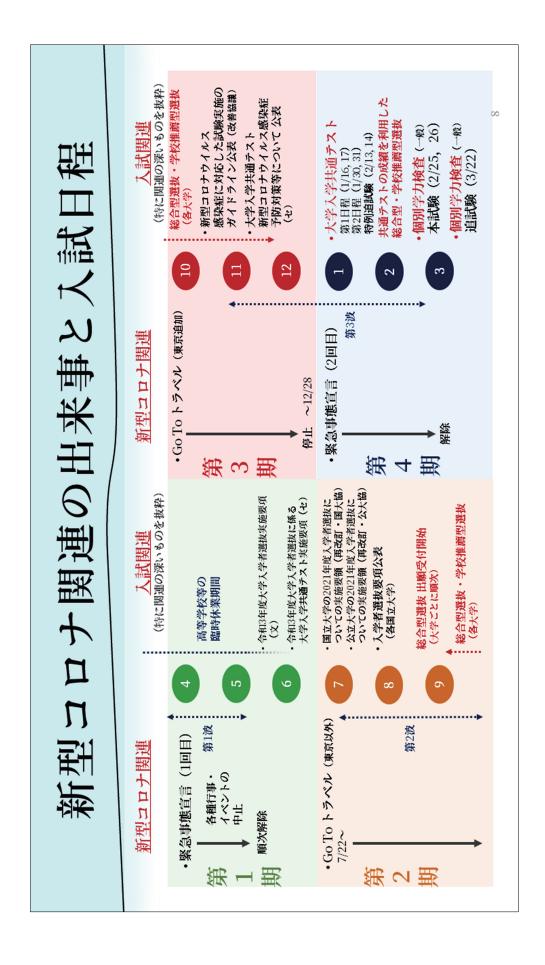
それでは、先生方のお話をお伺いする前に、まずは、新型コロナウイルスと令和3年度 入試の全体像について皆様と認識を共有したいと思います。

2020年1月に日本国内で新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降,3月の一斉休校,4月の緊急事態宣言と続いて、令和3年度入試の混乱は決定的なものになりました。

緊急事態宣言の解除後も高等学校や大学等での臨時休業は断続的に続きました。その中で6月に文部科学省から入学者選抜実施要項が、当センターから共通テスト実施要項が公表されました。

共通テストを第1日程,第2日程,特例追試験の3つの日程で,2週間おきに実施するということ,各大学で追試験日程を設定することなどが主なポイントでした。これらの要項は,各大学の選抜日程,方法などを記載した入学者選抜要項の礎となっています。

7月末からGoToトラベルが始まり、感染対策を万全にした上での県境をまたぐ移動が 認められました。9月から11月にかけては、国立大学では総合型・学校推薦型選抜が始ま りますが、受験生が県境をまたいで志望する大学のキャンパスに集合して、感染対策を行 いながら特色のある選抜試験を安心して受けることができたのは、各大学の綿密な御検討 があってのことです。



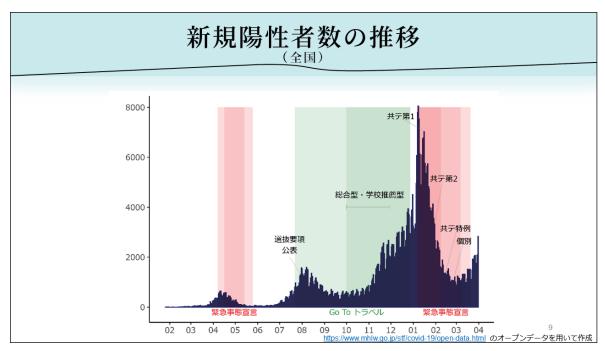
11月から12月にかけては、共通テスト、個別学力検査でのコロナ対策に関するガイドラインが公表されました。一般的な感染対策に加えて、体調不良者への対応など関係者には例年以上の高度な緊張感が走りました。コロナ禍での試験を目の前にした戸惑いや不安も改めてお伺いしてみたいと思います。

1月から3月には共通テスト・個別学力検査の本番を迎えました。コロナ禍での各大学での試験実施のリアルをお伺いするにつけ、壮絶な御苦労があったようです。後ほど、実感を交えたお話をお伺いしてみたいと思います。

この座談会では、コロナ禍での入試のリアルを追体験していただくために、2020年の4月から6月を第1期、7月から9月を第2期、10月から12月を第3期、1月から3月を第4期として、時系列に沿ってお話をお伺いしたいと思います。その後、西郡先生に司会をバトンタッチして、コロナ禍の令和3年度入試を総括したいと思います。

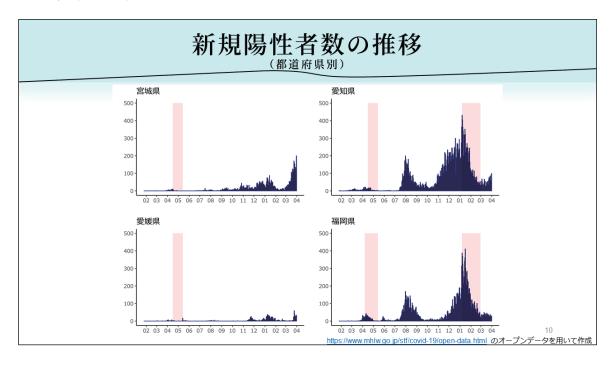
ここで改めて、2020年度中の新規陽性者数の推移を確認しておきたいと思います。この図では入試日程と新規陽性者数を重ね合わせた形ですけれども、共通テスト、個別学力検査は第3波の真っ只中で行われることになりました。本番での感染状況の深刻さは、もちろん、第1期には予測できなかったという状態です。先行き不透明な中で各大学の選抜要項公表を行うことになった点は、第1期の重要な視点だと思われます。

また、総合型・学校推薦型選抜のときに、徐々に陽性者数が増えていったということも 分かります。



続いて、先生方の大学がある都道府県ごとに新規陽性者数を見ていきたいと思います。 名古屋大学・名古屋工業大学のある愛知県、九州大学のある福岡県では、先ほど見た全国 的な推移とほぼ連動した動きをしています。

これに対して、東北大学のある宮城県、愛媛大学のある愛媛県では、第1波は比較的小さくて、第3波は相対的に深刻だったということもうかがえます。



第 1 期

第1期

 $2020.4 \sim 2020.6$

主な入試業務

入学者選抜実施要項(文部科学省)および 大学入学共通テスト実施要項(大学入試センター)等を 踏まえた 各大学の入学者選抜要項の検討 など

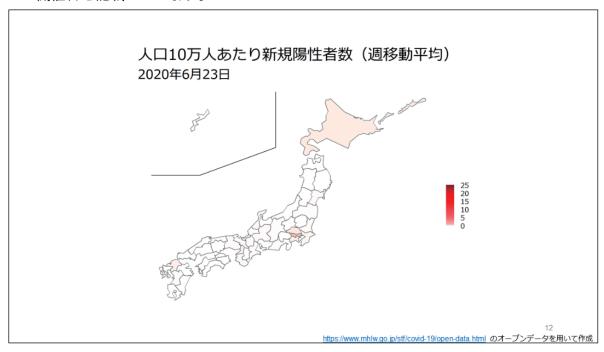
第1期のトークテーマ

- ・令和3年度入試日程を検討する際の苦労
 - ・都道府県境をまたぐ移動制限,大学の行動指針との関係
- ・個別学力検査の実施に関する温度感の違い
 - 「個別学力検査を必ず実施すべき」
 - 「共通テストの成績だけで選抜できるように」
- 不確実性の高い状況において各大学が重視したもの
 - 検討事項の詳細な洗い出し
 - 入試広報

15

寺尾:

さて、第1期に入ります。各期の初めに人口10万人あたりの新規陽性者数を日本地図でお示ししていくことにいたします。日付は、当センター研究開発部のオンラインフォーラムの開催日を記載しています。



感染状況が深刻になるほど赤色の度合いが増す形になりますが、6月末は一旦感染状況 は落ち着いていたということも分かります。

大学入試に深く関わる当時のトピック

・秋季入学

- ・令和2年度を半年延長するような議論もあった
- 選抜日程の組み方を根幹から揺るがす

・都道府県境をまたぐ移動の制限

- 県外からの受験生をどうするか
- 入試広報をどう工夫するか

・追試験の設定

• 全選抜区分で実施できるのか、個別学力検査のみか

13

第1回目の緊急事態宣言発出後に、大学入試の根幹に関わるいろいろなトピックがあり

ました。秋入学、県境をまたぐ移動の制限、県外からの受験生にどうやって試験を受けて もらったらよいかという点、さらに、その受験機会の保証という観点から追試験の設定に ついても話題になりました。

オンラインフォーラムで議論されたこと

- ・共通テストにおける成績提供日程の影響
 - ・第1日程・第2日程・特例追試験をまとめて? 独立に?
 - 各日程の受験者数の不確実性の高さ
 - ・共通テストを課す総合型・学校推薦型選抜への甚大な影響
- 追試験の設定(総合型・学校推薦型・一般)
 - ・実施方法の統一の可否、複数セットの問題作成の可否 など
- ・選抜要項に変更点が生じた場合の周知方法

14

第1回目のオンラインフォーラムでは、不確実な中で苦労されている先生方に、各大学の検討状況や懸念事項についてお伺いをしました。例えば、共通テストの成績提供日程、あるいは、選抜区分ごとの追試験の可否、選抜方法に変更が生じた場合の受験生への周知方法などが挙げられます。

さて、いよいよ先生方にお話をお伺いしたいと思います。

まず、トップバッターとして九州大学の立脇先生にお伺いしたいと思います。1回目の緊急事態宣言では県境をまたぐ移動の自粛が強く求められました。さらに、各大学でも感染状況ごとの行動指針というのが定められたかと思います。選抜日程や実施運営の方法を検討する際に、これらがどういう影響があったのか、九州大学の事例を交えてお話しいただけますでしょうか。

立脇:

それでは、ご説明させていただきます。

まず,前提条件としまして,5月まで大学は休校しておりまして,7月の末に大学として 入学者選抜の概要を公表しなければいけない,つまり,2か月で大きな方針を決めなけれ

第一期:学内WGにおいて入試の方針を検討

16

- ◆検討時に考慮した内容
- ①第1回緊急事態宣言時の状況と大学の活動指針
- ・大学が利用できない。 ・福岡県への移動禁止。
- ②高等学校の状況
- ・休校による授業・部活動などへの影響。 ・オンライン入試の環境。
- ③令和3年度大学入学者選抜実施要項(文科省)
- ・一般選抜の追試験。
- ※共通テストが中止の場合は、一大学の判断を超えているため、 6月の時点では検討しない。

ばいけないという状況でした。本学では、5月から6月にかけまして、学内のワーキンググループで検討を開始しました。

ここで幾つか, 前提条件がございます。特に本学の場合, 福岡県に対して, 佐賀県であったりとか, 他の九州地区から福岡県に行ってはいけないというようなことが出されていましたので, その中でどういうふうに受験生の受験機会を担保するかということを考えました。

ただ、この時点、5月・6月の時点では共通テストが中止になるというような事態は想定 しておりません。それを想定して検討すると収拾がつかなくなると思いました。

続きまして、本学の中で、大学としての教育に関する行動指針というのも出ております。 これも受験の際に必要だということで参考にしました。

具体的に言いますと、何もない場合は通常どおり実施する。逆に、大学に入ることができない場合も中止しかない。その中で、遠隔授業等を行っているような状況で入試をどうするかということを主に検討いたしました。

<新型コロナウイルス感染拡大防止のための九州大学の行動指針(授業のみ)>

段階	区分	授業
0	通常	
	一部	感染拡大防止に十分な配慮をした上で、
'	制限	対面と遠隔を併用して、授業を行います。
1.5	一部	感染拡大防止に最大限の配慮をした上で、
1.5	制限	対面と遠隔を併用して、授業を行います。
2	制限	感染拡大防止に最大限の配慮をした上で、
	(小)	対面と遠隔を併用して、授業を行います。
	制限	原則として、遠隔授業による科目の開講
3	(中)	とします。ただし、部局長等の判断によ
	(4)	り一部の対面授業を可とします。
4	制限	遠隔授業による科目のみの開講とし、対
-4	(大)	面授業によるものは開講しません。
5	原則	遠隔・対面を問わず、原則として全ての
_5	停止	授業科目の開講を中止します。

入試 通常
対策や代替手段が必要
中止・延期

第一期:学内WGにおいて入試の方針を検討

10

◆検討結果

- ①コロナに罹患した等の人を対象に一般(前期・後期)の追試験を実施。 科目は「数学・英語の総合問題」「小論文」「面接」から学部が選択。
- ②大学入学共通テストや一般の個別学力検査が実施できない場合は別途検討。
- ③総合・学校推薦は、感染拡大状況に応じて試験をオンラインなどに変更。
- ※「書類審査」「大学入学共通テスト」「学力検査・小論文」「面接」等から2つ以上実施。
- ④コロナに罹患した等で受験できない人へは追試験または受験料の返金を行う。
- ⑤試験実施にあたり、感染症対策を最大限行う。例)試験室の人数など
- ⇒上記の方針にもとづき学部ごとに検討し、決定

その結果、様々な形で方針を決定していきましたけれど、特に本学で中心的だったところとして、③総合型・学校推薦型、これに関しては試験をオンラインなどに変更して実施するということを大きな方針として、5月から7月の段階で決めまして、これを各学部がそれぞれ具体的な方法を検討していくということにいたしました。

もう一点,4番目ですけれど、コロナに感染して受験等できない人に関しては、一般選抜は追試験を行う。さらに、総合型に関しましては、後ほど御説明いたしますが、追試験

というのが難しいということで返金で対応するということをこの時点で決めておりました。 このような方針等を他大学の状況とあわせて正しいかどうかということについて、この 座談会で確認したということになります。

以上になります。

寺尾:

立脇先生、どうもありがとうございました。

九州大学では大方針を決めて、それに沿って選抜を組んでいった、という話でした。ありがとうございます。

次に、個別学力検査の実施に関する大学の温度感の違いという観点からお話をいただき たいと思います。これは、東北大学の倉元先生と名古屋工業大学の林先生にお話をお伺い します。

入試本番に当たる1月から3月は、気温や湿度が低いということから感染爆発するのではないかという予想もありました。こうした中で、一般社会で移動制限がかかった場合であっても各大学の個別選抜は絶対に実施すべきだと考える大学と、慎重な大学がはっきりと分かれたように思いました。

まず,災害時の個別学力検査の実施ということについて,過去の事例とあわせて倉元先生,お話しいただけますでしょうか。

倉元:

私が東北大学を代表して話せるわけではないんですけども、この頃に何を考えていたのかということをお話しさせていただきます。

まず、この時点で全学的な議論というのは実施していなかったというのが実情ですね。 先行き不透明な中で議論をすると、いろんな意見が出て収拾がつかなくなるということで、 とりあえずは、入試に関しては入試の関係者が考えているような状況でした。とにかく入 試の業務が止まってしまったのが非常に痛手でした。普段でも非常にぎりぎりの人員でぎ りぎりのスケジュールでやっているものに対して、その後様々な影響が出ないようにとい うことですよね。

2つ目が、やはり、コロナの影響で入試が根本的に変わってしまうということに対して

懸念をしました。特に、個別試験だけは、ぜひやらなければならない。というのは、ちょうどこの年の受験生の学年が、高大接続改革で非常に揺れに揺れた受験生だったので、彼らが準備してきたものを壊すわけにはいかないということを非常に考えました。

このとき役に立ったというか、考えの一つのレファレンスになったのが、平成22年度入試のときの新型インフルエンザだったと思うんですね。このときに、特に当時の大学入試センター試験において相当大幅な対応を求められたんですけれども、実際にはそれほど…。例えば、1割もの受験生が感染するような状況というのは、社会機能を完全に麻痺してしまう状況だろう、今回も同じように考えるべきじゃないかなということを思いました。つまり、個別試験を中止にしなければならない状況があるとすれば、それはもう社会機能が止まったときで、個別大学の判断ではないということですね。

もう一つ、どうしても県境を越えた移動を制限されるようであれば、地方会場を設ける 検討をしなければならないと考えていたことがあります。ただ、これは、実際には個別大 学でやるのは不可能なので、他大学と共同で行うにはどうするかということを少し考え始 めていた状況だったと思います。

ただし、繰り返しますけども、全学的な議論ではなくて、関係者の中で考えていたということになります。

寺尾:

ありがとうございます。

次に、名工大の林先生にもお伺いしたいのですが、緊急オンラインフォーラムの当時も 個別学力検査の実施は必須だというお考えだったように記憶していますけれども、林先生、 お考えを教えていただけないでしょうか。

林:

名工大というのは、幸い、今日御参加の先生方の中でも一番規模が小さい、しかも単科 大学だということで、我々の同僚たちが非常に尽力したというのは事実ですが、比較的小 回りが利く、決めたらそのまま動けるという、小さな規模の大学だということだろうと思 っています。

そういう意味で、進学説明会とかオープンキャンパスは中止にいたしましたけど、基本 的には学内でやる試験は何とかやろうということを考えていた時期だと思っています。そ の意味で、やはり、大学の規模というのは一つの大きなファクターなんだろうなという気 がしております。

以上です。

寺尾:

どうもありがとうございます。

過去の事例、そして、大学の規模という観点をいただいたかなと思います。

次に、各大学で重視したものという点で名古屋大学の石井先生と東北大の倉元先生にお話をお伺いしたいと思います。

名古屋大学では、共通テストが実施された場合・されなかった場合、一般選抜が実施された場合・されなかった場合といった条件に応じた入試パターンのシミュレーションを、詳細にしていたというお話をお伺いしました。このことについて、石井先生、お願いできますでしょうか。

石井:

【画面共有のみを想定した資料の提示】

名古屋大学では連休が明けた5月の中旬から6月にかけて、そのようなものを作成していました。何かといいますと、共通テストが本当になかったらどうなるんだろうかとか、個別学力試験やれなかったらどうなるんだろうかというものを場合分けして、大学としてどのような対応が可能かということを示したフローチャートです。とにかくどうなるんだろうと言っていても仕方がないということで、それがもしあったら、部分的にでも実施されたら、共通テストがなかったら、などの場合に分けてまとめました。共通テストがあるパターンで11通りあります。共通テストがないパターンはお示ししませんが、同様のパターン数のものをつくっていきました。

そして、そのときに試験日程がどうなるかとか、科目がどうなるとか、時間がどうなるとか、追試をどうするとか、とにかくいろんなことをファクターとして挙げてフローチャートを作成していきました。

それぞれパターン分けしていたものとして、そこではどんな入試ができるんだろう、どんなことが考えられるんだろう、もし、このパターンになったらやらなければいけないのはここだということを一覧表にして、どういう状況になってもそのときに自分たちがどう

動くべきかということが分かる状況をつくっておりました。

この一覧表の作成を入試課にお願いするわけにはとてもいきません。ただでさえ大変なのでそんなことをとても事務の方にお願いできませんでしたので、もちろん、入試課のほうにいろいろお伺いしながらですが、アドミッション部門のほうでこれらの資料を全部作っていったということです。

こういうのを作っていった背景ですが、とにかく学内の委員会のほうで入試をどうする んだ、というような形で、いろいろ言われる中、私たちもきちんと考えていますというこ とを示すという意味で、また、我々の行動指針をきちんと定めておくために、これをつく っておきました。

これによって、アドミッション部門、入試課もそうですけども、学内全体が何とかなり そうだな、何が来ても何とかなりそうだなというような形で、とにかくその当時の浮き足 だった感じが収まる形になっていったかと思います。

また、このような場合分けをすることによって、この後、アドミッション部門が年末に向けていろんな資料を作成していくことになります。つまり、共通テストも個別試験ももし本当になくなったらどんな選抜ができるのかということを考えたときに、いろんなこれまでの既存のデータを活用して、とにかく対策を立てようということで、アドミッション部門のその後のいろんな資料作成ということにもつながっていきました。

以上です。ありがとうございます。

寺尾:

どうもありがとうございます。

名大で御検討されるに当たっては、アドミッション部門の先生方が総力を結集されたというお話をお伺いしました。感染状況が見えない不確実な中で、検討事項を洗い出すということによって関係各所と合意を図る、見える化していくというプロセスもあったというお話でした。

東北大学では入試広報や受験生への周知ということに重点を置かれていたという話でしたけれども、今の石井先生のお話と対比させながら、倉元先生、お願いいたします。

倉元:

そうですね、実際、我々も入試部門として活動しているわけですけども、学内に意識を

割く余裕がなかったというのが正直なところでした。むしろ、外に向けて、受験生にどういった形で大学の情報をお伝えし、安心して受けていただける準備をするのかということについて整えていました。

ちょうど今日,技術スタッフを東北大のほうで引き受けていますけれども,宮本先生中心に,通常対面で実施している広報活動を全てオンライン化するのを短時間でやり遂げたというのがこの時期の話です。

一番最初,東北大学の説明や,その年の入試の細かいことは話せないですけども入試の 仕組みなどを御説明する,進学説明会・相談会というのがあるんですけど,これをいち早 くオンライン化するということで,6月2日からでしたかね,もう既にサイトをオープンす るというようなスピード感でやりました。

あと、通常だと大学入学者選抜実施要項が届けられて、6月の頭には選抜要項を出しているんですけど、これができない状況の中で、様々な情報が大学に届いて、そこから決定のプロセスもあるものですからどうしても時間かかるんですよね。

その中でも、取りあえず、今、決まっていることを指導する先生方にお伝えする、入試 説明会と呼んでいるものですが、これも7月の半ばぐらいからですかね、何とか、そのと きに分かっている情報をお伝えするという形でオンラインから実施いたしました。

最後、メインイベントというか、対面のオープンキャンパス、東北大だと毎年5万人規模で来場者があるというようなものなんですけども、これができないものですから、これに代替するような大学の情報発信ということが課題でした。これは各学部の協力を得ながら、通常オープンキャンパスをやっている7月の末ぐらいにサイトを開設するというような形で、極めて、意識としては対外的にどんな情報をお伝えするかというふうに向いていたなということをこの時期に関しては思います。

寺尾:

どうもありがとうございました。

先ほどの名古屋大学の石井先生のお話とある意味対照的だなと感じながら、お話をお伺いしました。

それでは、第1期の最後のトークテーマとして、選抜区分ごとの追試験の実施の可否ということについて取り上げたいと思います。

このトークテーマについては、名古屋大学の石井先生と九州大学の立脇先生にお話をお

伺いしてみたいと思います。

一般選抜の個別学力検査ではもう1セット試験問題を作成するということで何とか追試験の機会を設けることができましたが、総合型・学校推薦型選抜であるとか、一般選抜の後期日程の面接などでは、追試験の機会を設けることは難しいケースも多々あったようでした。

まず、一般選抜の後期試験の面接について、石井先生、お願いできますでしょうか。

石井:

後期試験、名古屋大学では医学部医学科のみ行っているんですが、単純に後期試験というわけではなくて、愛知県というものが絡んできて、予算が絡むんですね。要するに、定員がしっかりあって、そこで入ってきた者たちは学費が給付されるという形ですので、非常にリジッドなスケジュールで、自由度の低い選抜になります。

そういったところでこの追試験というものをやるのが非常に困難でした。この時期は, 追試験をいつどのように実施するんだということがまだ未確定な時期だったので, 医学科 の先生と相談をして, 後期入試の追試をやるとしたらどうするか, やらない方法はないの かとか, いろんなことを議論していたと思います。

寺尾:

どうもありがとうございます。

続いて、立脇先生、総合型・学校推薦型選抜での追試験についてはいかがでしょうか。

立脇:

一般選抜と違いまして、総合型・学校推薦型選抜に関しましては、学部ごとに問題を作成しているということ、学部、学科によっては、そもそも本試験の受験生が数名単位で、追試験の対象者がいない可能性も高いということ、さらには、この後に一般選抜が控えているということがありますので、本学では面接と総合型に関しては極力オンラインで対応するということを原則とし、受験できない人を本試験のほうでつくらないようにするという方針でした。

そのため、大学全体として追試験を課すということは行わず、受験料の返金という形で 対応していく、ただし、追試験を実施したいという学部があった場合には追試験を実施し てもいいということを大きな方針として決定いたしました。

第一期:総合型・学校推薦型選抜の追試験

- ・大学全体で | つの問題セットを作成する一般選抜と異なり、学部単位で 異なる試験問題を作成する必要がある。
- ・受験者数も少なく、対象者がいない可能性の方が高い。
- ・この後に一般選抜が控えている
- ⇒面接等を極力オンラインで対応できるよう準備し、受験できない人を作らないようにする。そのため、大学として、全学部で追試験を課すことはせず、 受験料の返金で対応。ただし、追試験を実施したい学部は実施してよい。

寺尾:

どうもありがとうございます。先生方、貴重なお話をどうもありがとうございました。 手探りの中で各大学の方針を確かめていくというプロセスが手に取るようによく理解できました。

第 2 期

第2期

 $2020.7 \sim 2020.9$

主な入試業務

オープンキャンパス・進学説明会・高校訪問などの広報活動 総合型選抜・学校推薦型選抜の学生募集要項の公表 (順次)

総合型選抜・学校推薦型選抜の出願受付 など

第2期のトークテーマ

- ・総合型・学校推薦型選抜の事例共有 (第3期) に向けた 基礎情報の理解
 - 愛媛大学 (早い判断が求められた/例年の選抜方法を一部変更した)
 - 九州大学 (オンラインの活用/募集要項の記載内容変更の周知)
 - 名古屋工業大学 (出願要件に「評定平均3.5以上」を追加)
- ・東北大学「緊急高校調査」の結果の紹介

26

寺尾:

それでは、第2期に入りたいと思います。第2期の主な入試業務としては入試広報活動、総合型選抜・学校推薦型選抜の募集要項の公表、総合型・学校推薦型の出願受付などが挙げられます。



オンラインフォーラムの第2回は10月2日に実施させていただきました。7月から9月が 第2期ですけれども、少しその7月から9月の状況を俯瞰できる状況でした。

オンラインフォーラムで議論されたこと

- ・面接・グループディスカッションの実施可否の判断
 - ・特色ある選抜方法 と 飛沫感染リスク との関係
 - ・対面の面接を実施した大学・オンライン面接に切り替えた大学 それぞれの判断の裏側
- ・総合型・学校推薦型選抜の追試験の実施可否
 - 本試験と追試験で選抜内容・方法が異なる場合の対応
- ・オンラインの利用
 - ・実施方法の工夫・苦悩 (離島・僻地などに住む受験生への配慮 など)

25

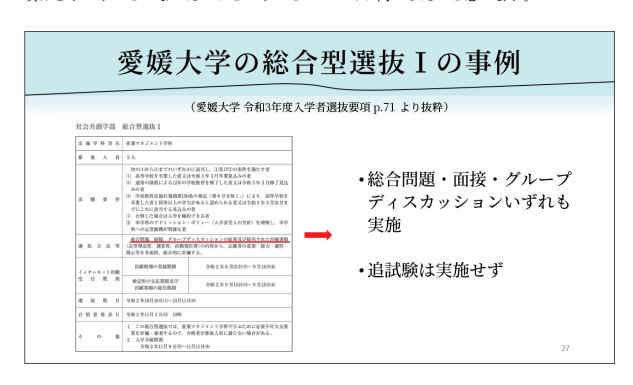
第2回では、総合型選抜の具体的な方法について情報共有をしました。面接やグループディスカッションをできるかどうか、その具体的な方法、追試験の実施については各大学でかなり悩まれたようでした。また、オンラインを活用した選抜方法については、工夫を凝らしつつ、多様な環境にある受験生の丁寧な配慮というところにも心を尽くされたというお話をお伺いしました。

この第2期の前半では総合型・学校推薦型選抜で特色のある対応をされた大学、学部のお話、基礎情報を整理しながらお話をお伺いしたいと思います。この第2期では選抜方法や日程などだけお伺いして、実際どうだったのかということについては第3期のところでお伺いしたいと思います。

後半はこの第2期に東北大学で実施された緊急高校調査(高校へのアンケート)の概要 と結果について御紹介いただきたいと思います。

第2期の最初は、愛媛大学の中村先生にお話をお伺いしたいと思います。愛媛大学では 総合型・学校推薦型選抜が10月上旬から始まることもあって、本日御登壇の先生方の中で は最も早い判断が求められた選抜区分がありました。

例年であれば対面の面接であるとか、グループディスカッションというところがあるわけですけれども、昨年度の選抜は一体どういった形で行われることになったのか、懸念事項はどういうことになったのかということについてお伺いしたいと思います。



【スライド内の資料を拡大したもの】

実	施学科	等 名	産業マネジメント学科		
募	集 人	員	5人		
出	順要	件	次の(1)から(3)までのいずれかに該当し、①及び②の条件を満たす者 (1) 高等学校を卒業した者又は令和3年3月卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は令和3年3月修了りみの者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定(第6号を除く。)により、高等学科卒業した者と同等以上の学力があると認められる者又は令和3年3月31日でにこれに該当する見込みの者 ① 合格した場合は入学を確約できる者 ② 本学科のアドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)を理解し、20科への志望動機が明確な者		
選	抜方衫	去 等	総合問題、面接、グループディスカッションの結果及び提出された出願書類 (志望理由書、調査書、活動報告書)の内容から、志願者の意欲・能力・適性・ 関心等を多面的、総合的に評価する。		
イン	ンターネット	ト出願	出願情報の登録期間	令和2年8月31日(月)~9月18日(金)	
受	付 期	間	検定料の支払期間及び 出願書類の提出期間	令和2年9月15日火~9月18日金	
選	抜 期	H	令和2年10月10日(土)~10月11日(H)		
合	格者発	表日	令和2年11月2日(月) 10時		
7	n	他	1 この総合型選抜では、産業マネジメント学科で学ぶために必要不可欠な資質を評価・審査するので、合格者が募集人員に満たない場合がある。 2 入学手続期間 令和2年11月9日(月)~11月11日(水)		

中村先生, よろしくお願いいたします。

中村:

愛媛大学の総合型選抜・学校推薦型選抜で最も早いのが、社会共創学部の総合型選抜で、10月の上旬に実施なんですね。そのため、募集要項を発表する前にどのような対策をするか検討する必要があります。この社会共創学部の総合型選抜は、大学入学共通テストを課さない選抜で、総合問題、面接、グループディスカッション、出願書類で選抜を行いますが、この募集要項の発表が7月上旬ということで検討を進めていたため、まだほかの大学の検討状況が分からず、グループディスカッションや面接の実施方法等について検討して

いました。

また、文部科学省から示されたガイドラインや、他大学、昨年行ったフォーラム等での 検討状況も踏まえて、募集要項に感染症の流行や自然災害の発生によって試験の変更等が ある旨を周知して、予定どおりの募集要項の発表となりました。

愛媛大学の学校推薦型選抜の事例

(愛媛大学 令和3年度学校推薦型選抜 学生募集要項 p.61 より抜粋)

(5) 選抜方法等

1) 第1次選抜

小論文、面接"の結果並びに提出された出願書類(推薦書、調查書、活動報告書)により、合否判定 基準に基づき選考し、募集人員の1.5~2倍程度を合格させます。

小論文は和文・英文で出題します。

選抜の結果は、令和2年12月4日金に出身学校長及び受験者に送付します。

次のWebサイト(運営会社:大学情報センター)で合格者免表を行います。 アドレス (URL) を事前に「お気に入り(ブックマーク)」に登録の上、合格者発表後にアクセスし

ていただけると、早く確認ができますので、事前登録をお願いします。なお、本学ホームページでの発 表は行いませんので、ご信意願います。

Webサイトでの発表は、参考として閲覧の上、必ず選抜結果通知書により確認してください。

Webサイト	https://daigakujc.jp/ehime-u_goukaku/				
掲載期間	令和 2 年12月 4 日(金10時 (予定) ~12月17日(水)17時				

(注) Webサイトにアクセスが集中し、一時的につながりにくい状態になっている時は、少し時間をおいてから、再度アクセスしてください。

第1次選抜により第<u>2次選抜対象となった者は</u> 令和3年1月18日(明-1月22日(絵の間に、「令和3 共通テスト成講請求票 [推應] 国公立推察整選抜用」を医学部入試係へ提出してください。 なお、持参する場合は、9時から17時までとします。

※入学者選抜要項では、「面接・グループディスカッション」としていましたが、新型コロナウイルス 感染症の拡大防止のため、グループディスカッションは実施せず個人面接のみ実施します。

28

【スライド内の資料を拡大したもの】

(5) 選抜方法等

1) 第1次選抜

小論文, 面接*の結果並びに提出された出願書類(推薦書, 調査書, 活動報告書)により, 合否判定 基準に基づき選考し, 募集人員の1.5~2倍程度を合格させます。

小論文は和文・英文で出題します。

選抜の結果は、令和2年12月4日(金に出身学校長及び受験者に送付します。

次のWebサイト(運営会社:大学情報センター)で合格者発表を行います。

アドレス (URL) を事前に「お気に入り (ブックマーク)」に登録の上、合格者発表後にアクセスしていただけると、早く確認ができますので、事前登録をお願いします。なお、本学ホームページでの発表は行いませんので、ご留意願います。

Webサイトでの発表は、参考として閲覧の上、必ず選抜結果通知書により確認してください。

Webサイト	https://daigakujc.jp/ehime-u_goukaku/			
掲載期間	令和 2 年12月 4 日 ⑥ 10時 (予定) ~ 12月17日 休 17時			

(注) Webサイトにアクセスが集中し、一時的につながりにくい状態になっている時は、少し時間をおいてから、再度アクセスしてください。

第1次選抜により第<u>2次選</u>抜対象となった者は、令和3年1月18日(月)~1月22日(金の間に、「令和3 共通テスト成績請求票

推薦

国公立推薦型選抜用」を医学部入試係へ提出してください。

なお、持参する場合は、9時から17時までとします。

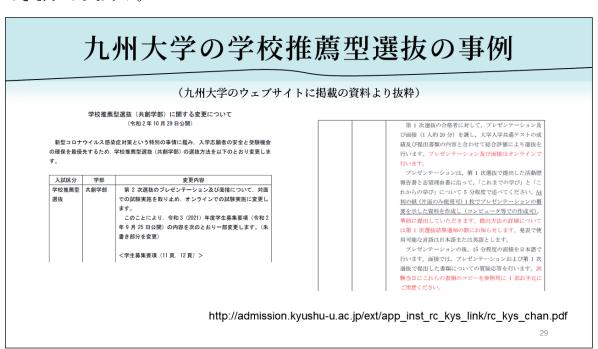
※入学者選抜要項では、「面接・グループディスカッション」としていましたが、新型コロナウイルス 感染症の拡大防止のため、グループディスカッションは実施せず個人面接のみ実施します。 実際に変更を行ったのは、医学部の看護学科の学校推薦型選抜で、11月の中旬に行うんですけれども、この医学部看護学科の学校推薦型選抜というのは大学入学共通テストを課す選抜で、小論文、面接、グループディスカッション、出願書類で選抜を行います。募集要項発表の段階で新型コロナウイルス感染症の拡大防止ということを踏まえて、グループディスカッションを取りやめることとしました。これを募集要項にも掲載することができました。

この判断には、個人的な見解ではありますけれども、試験会場が医学部のあるキャンパスで、しかも附属病院が隣接しているという環境も影響しているのではないかなと考えています。以上です。

寺尾:

中村先生, どうもありがとうございました。医学部看護学科ということもあってそうい う対応を取られたというお話でした。

九州大学でも総合型・学校推薦型選抜での選抜方法を工夫されたというお話でしたけれども、立脇先生、特にオンラインを使ったというところについてもあわせて詳しくお伺いできますでしょうか。



【スライド内の資料を拡大したもの】

学校推薦型選抜 (共創学部) に関する変更について (令和2年10月29日公開)

新型コロナウイルス感染症対策という特別の事情に鑑み、入学志願者の安全と受験機会 の確保を最優先するため、学校推薦型選抜(共創学部)の選抜方法を以下のとおり変更しま す。

入試区分	学部	変更内容		
学校推薦型 選抜	共創学部	第 2 次選抜のプレゼンテーション及び面接について、対面 での試験実施を取り止め、オンラインでの試験実施に変更し ます。		
		このことにより、令和3(2021)年度学生募集要項(令和2年9月25日公開)の内容を次のとおり一部変更します。(朱書き部分を変更)		
		<学生募集要項(11 頁、12 頁)>		

第1次選抜の合格者に対して、プレゼンテーション及 び面接(1人約20分)を課し、大学入学共通テストの成 績及び提出書類の内容と合わせて総合評価により選抜を 行います。プレゼンテーション及び面接はオンラインで プレゼンテーションは、第 1 次選抜で提出した活動歴 報告書と志望理由書に沿って、「これまでの学び」と「こ れからの学び」について 5 分程度で述べてください。A4 判の紙 (片面のみ使用可) 1 枚でプレゼンテーションの概 要を示した資料を作成し (コンピュータ等での作成可), 事前に提出していただきます。提出方法の詳細について は第1次選抜結果通知の際にお知らせします。発表で使 用可能な言語は日本語または英語とします。 プレゼンテーションの後、15 分程度の面接を日本語で 行います。面接では、プレゼンテーションおよび第1次 選抜で提出した書類についての質疑応答を行います。試 験当日にこれらの書類のコピーを参照用に 1 部お手元に ご用意ください。

立脇:

具体的な内容に関しましては、この後、第3期でお話しいたします。

第二期:総合型・学校推薦型選抜での準備

3

- ・コロナによる変更は、感染拡大時のバックアップという位置づけだった。
- ・8月の第2派の際に大学院等の入試で学部がオンライン入試を実施。
- ・10月にWGを作成し、オンライン面接のガイドラインを作成。
- 例)事前接続テストの実施。パソコン以外の非常用連絡手段の確保。接続トラブルで失格としない。
- ⇒学部はマニュアル等を作成し準備を進めつつ、感染拡大によって対面実施が 困難と判断した時点で、変更を告知。(9月~1/12に公表)

年末年始の感染拡大

本学では様々な変更等を行いましたが、実際に入試を行う時点、検討を行っている時点ではコロナによる変更というのはあくまで感染が拡大したときのバックアップということで、ぎりぎりまで発表しない。対面での実施というのを基本としていますが、どうしてもできないというときだけ実施するということにしております。

学内で後々検討して分かったことですけれど、8月の第2波の際に大学院の入試であったり、3年次編入ということで各学部がオンライン入試の様々なノウハウを実はそこでもう蓄積していました。ただ、大学院入試なので、パソコンを持っている人が前提の入試なのに対して、学部の入試はパソコン等がない人もいるということで違いはありましたけれど、学部はかなりノウハウを持っていたということでした。

さらに、10月にオンライン面接のガイドラインというものを作成し、例えば、事前接続 テストを実施する、パソコン以外の携帯電話等の非常用の連絡手段を用意するというよう なことを各学部に配付しまして、それに基づいて実施するということで準備を進めていた だきました。ですので、これに基づいて学部としてはマニュアルを作成するということが できたかと思います。

感染が拡大して対面実施が難しいと判断した場合に、具体的な変更を発表するというこ

とになっていましたが、早い学部は9月に変更を発表し、一番遅い学部は1月12日、これは年末年始の感染拡大を受けて年明けに学部で検討して、ぎりぎりのタイミングで発表したということになります。これに関しては、後ほど高校から言われましたのは、宿泊のキャンセル等のことを考えると1か月ぐらいまでには発表してほしいということで、2月の上旬に実施する総合型でぎりぎりの日程だったということが後で分かりました。

以上になります。

寺尾:

どうもありがとうございます。

ちょっと細かなお伺いですけれども,非常用の連絡手段というのは,具体的には受験生の携帯電話の番号ということですか。

立脇:

そうですね、トラブルがあった場合、まずは携帯電話でやり取りをするということにしました。ただ、スマートフォンで受験している学生に関してはスマートフォン以外の電話をもう一台ということで2種類の通信手段を持つということにしておりました。

寺尾:

どうもありがとうございます。

次に、名工大のお話をお伺いしたいと思いますが、名工大では例年英語4技能試験のスコアを求めていた一部の学部について、学校推薦型選抜で英語4技能試験も受験機会が減っているということを受けて、それを考慮した対応を取られたというお話でした。その対応の具体と背後にどういった議論があったのかということについて、林先生、お願いいたします。

林:

今、寺尾先生がおっしゃってくださったとおりであります。

本学には、6年制の創造工学教育課程というのがございまして、そこには2つのコースがあります。普通は4年制プラス修士の2年ということで6年なんですが、この創造工学に関しては6年制であります。日本の中でも比較的6年制を持っているところは少ないんです。

6年間の修学の中には海外での修学というのを求めており、英語を使って実際に生活をし てくるということを考えていますので、かねてより外部の英語試験というものを取ってく るようにとしておりました。

名古屋工業大学の学校推薦型選抜の事例

(名古屋工業大学 令和3年度 入学者選抜要項 pp.17 - 18より抜粋)

次に該当し、出身学校長が責任を持って推薦できる者 高等学校又は中等教育学校の普通科、理数に関する学科、専門学 科又は総合学科を、卒業した者又は2021年3月卒業見込みの者の うち、高等学校における学習成績概評がA又はBに属するもの。 下記に示す英語外部試験のいずれかのスコアが基準点を満たし

ていること。又は高等学校における学習成績の科目「英語」の評 定平均値が3.5以上であること。

英語外部試験	基準点	英語外部試験	基準点
Cambridge English	120	TEAP (2技能)	68
英検	準2級	TOEFL IBT	40
GTEC	690	TOEFL Junior STANDARD	645
IELTS	3.0	TOEIC L&R	400
TEAP	135	TOEIC L&R/TOEIC S&W	625 注
TEAP CBT	235		

- (主:1) 新型コロナウイルス航空能(COVID-19)の影響を踏まえ、2021年度(令和3年度)学校推薦製選技に限り、英語外部試験のスコプに代わり、「高等学校における学習成績の科目、英語・の評定平均値が35以上であること」も、出願要任上して認める。
 注2:国公立大学(独自日程で入学普選抜試験を行う公立大学・学部を除く。)の学校推薦製選技(大学入学共通テストを課す場合、課さない場合を含めて)へ出願することができるのは、1つの大学・学部・学科(募集単位)に限られています。注3:「創造工学教育課程」に各学校等から推薦できる人数は、4人以内(各)一次2人以内)とします。 以内(各コース2人以内)とします。
- •工学部第一部 創造工学教育課程 (材料・エネルギーコース) (情報・社会コース)
- 出願要件の欄に、左記の記載

32

【スライド内の資料を拡大したもの】

次に該当し、出身学校長が責任を持って推薦できる者 高等学校又は中等教育学校の普通科,理数に関する学科,専門学 科又は総合学科を、卒業した者又は2021年3月卒業見込みの者の うち、高等学校における学習成績概評がA又はBに属するもの。

下記に示す英語外部試験のいずれかのスコアが基準点を満たし ていること。又は高等学校における学習成績の科目「英語」の評 定平均値が3.5以上であること。

英語外部試験	基準点	英語外部試験	基準点
Cambridge English	120	TEAP (2技能)	68
英検	準2級	TOEFL iBT	40
GTEC	690	TOEFL Junior STANDARD	645
IELTS	3.0	TOEIC L&R	400
TEAP	135	TOEIC L&R/TOEIC S&W	625 注
TEAP CBT	235		

注:TOEIC L&R/TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍して合算したスコアとする。

注1: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響を踏まえ 2021年度(令和3年度)学校推薦型選抜に限り、英語外部 試験のスコアに代わり、「高等学校における学習成績の科目 「英語」の評定平均値が3.5以上であること」も. として認める。

注2: 国公立大学(独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・ 学部を除く。) の学校推薦型選抜(大学入学共通テストを課 す場合、課さない場合を含めて)へ出願することができる のは、1つの大学・学部・学科(募集単位)に限られています。

注3:「創造工学教育課程」に各学校等から推薦できる人数は、4人 以内(各コース2人以内)とします。

ところが、外部の試験が会場の確保を含めてなかなか実施できないということになって おりましたので、それはやはりよくないということで、学内で検討した結果、高校の成績 もこのコロナのときだけは使おうということで、高校の成績の3.5以上というものを求め て外部試験に代わるものにいたしました。

また、この学校推薦というのは、共通試験を使うものと使わないものと、それぞれ2通りを用意していますから合計で4つの選抜単位があるんです。多少ばらつきがあるので単純に10名ずつということではないのですが、定員は40名程度となっております。学内でも比較的選抜単位としては小さいということではありますけど、英語の必要性ということから外部の試験に代えて、高校の成績を使うということでCOVID-19に対応しようと考えた次第であります。

以上です。

寺尾:

どうもありがとうございます。受験機会の減少を受けてというお話でしたけれども、特に学内だけということだったのか、高校から具体的に声があったのか、そのあたりはいかがでしょうか。

林:

そこまで、高校から具体にあったような記憶はないのですが、やはり、外部試験がこと ごとく実施できないという状況は我々、耳に入っていましたので、これでは受験すること を奪ってしまうことになる、ということを危惧しての措置でありました。

寺尾:

どうもありがとうございます。

実際に総合型選抜・学校推薦型選抜でどうあったのかということについては,第3期の 冒頭でもしっかりとお伺いしていきたいと思います。

続いて、第2期の後半のトークテーマとして、東北大学で緊急の高校調査をこの時期に 実施されたというお話でしたので、その概要と結果について倉元先生から情報共有いただ きたいと思います。よろしくお願いいたします。

倉元:

最初に、東北大学の入試の仕組みと、それから、高校調査とは何かというようなお話を させていただきます。

まず、東北大学では、いわゆる学校推薦型選抜というのを実施しておりません。総合型選抜が2つあります。1つは、AO入試Ⅱ期と呼んでおります。11月に実施をするもので、第1次に筆記試験があり、第2次選考で面接試験があるのが、基本的なパターンです。筆記試験は独自に課すものですね。

AO入試Ⅲ期というのが、これがいわゆる大学入学共通テスト、従前だとセンター試験を第1次選考として課すもので、多くの学部では第2次選考では面接というパターンです。

それと一般選抜ですね、共通テストと個別試験の組合せというものなのですが、それぞれに関して高校側が県境をまたいだ移動が制限されるというような状況になったときに、 どういうことを望んでいるのかというのを押さえた上で意思決定の参考にしようということで実施をしました。

これは、例年実施をしているもので、テーマはいろいろなんですね。大体時期としては年末から年度末ぐらいにかけて、その時々のテーマを取り上げるというものです。例えば、ちょっと有名になりましたけれども、英語4技能に対する対応などもこの高校調査で国大協が全て課すという方針がどうかということで、賛成が8%ぐらいしかないというようなことも一つ議論の根拠になったものです。

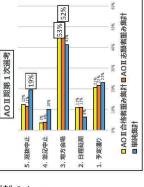
この当時、何を考えていたかというと、とにかく受験生が準備してきたものをそのまま 出せる形で実施をしたい。だから、できるだけ変えたくないということを考えていたとい うのが本音です。

ということで、それぞれAOII期の第1次選考、第2次選考、それから、AOIII期の第2次選考、一般選抜、個別試験、これら全て県境をまたぐ移動が制限されるような状況だったらどうするかということについて聞いております。

AOII 期の第1次選考というのは筆記試験でして、11月の頭に実施予定だったものです。 集計の仕方がちょっと変わっていまして、一番下の青色が普通の単純集計です。その上に 2つ黄色とオレンジ色、この2つが志願者で、あるいは、合格者ですね、重みづけ集計した ものです。

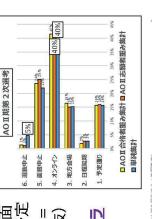
緊急高校調査 (1)

- AOII 期第1次選考:筆 記試験、11/7実施予定 選抜中止、筆記試験中止上 (=書類で選抜)は 少数派
 - 当事者は地方会場希望
- •COVID-19対応の地方 会場設置は困難



緊急高校調査 (2)

- AOII期第2次選考:面接試験、11/21実施予定
 - <u>面接試験中止</u>容認 (= 書類+筆記試験で選抜) も <u>約</u>¼は存在
 - 多数派 (4割) はオンラ イン面接試験を容認



2020/9/23

大学入試を設計する:基調講演1

大学人気を設計する:基調講演1

緊急高校調査 (4)

• 一般選抜個別試験: 前 期日程2/25·26、後期 日程3/12実施予定

AO Ⅲ期第2次選考

AOⅢ期第2次選考:面接

緊急高校調査 (3)

3. 選抜中止

・募集中止は皆無

65% 63%

2. 2次中止

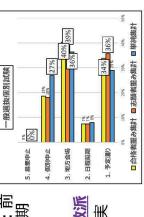
<u>L</u> (=大学入学共通テスト +書類で選抜)が多数派

第2次選考(面接中心)中 試験等、2/13実施予定

1. 予定運り

個別試験中止は少数派

多数派は予定通りの実 施2地方会場に2分



2020/9/23

大学人気を設計する:基調講演1

□AOⅢ合格者重み集計■AOⅢ志願者重み集計

実際、共通テストの比重大

AO 皿期のタイトな日程

大学入気を設計する:基調講演1

東北大学の入試が目的ですので、ランダムサンプルではなくて東北大学に受験生、ないし、合格者をたくさん輩出している高校という母集団ですね。大体300校ぐらいで実施をしたものなんですが、まず、AOII期の第1次選考に関しては、選抜の中止というのは、青のほうが若干多く、20%近くあります。つまり、集計に重みをつけなければ、「やらなくてもよいのではないのか」という意見も出たのですが、実際に合格者や志願者を出しているところからは、そういった意見は非常に少ない、1割ぐらいになりますね。

ちょっと予想外だったのは、「地方会場」という選択肢を用意していたんですけど、ここに圧倒的に支持がきました。これは、この前の第1期の頃に、もしも県境をまたいだ移動ができないとすれば他大学とコラボレーションして、何とか地方会場を設けて実施できないかなと考えていたものですから、選択肢に入れたのですが、正直、まさかここにそんなに人気が集まるとは思っていなかったのです。

それに次ぐのは「予定通り」です。一言で言えば、やはり、受験生に受験をさせてほしいというのが高校側の意思だろうなという理解をしました。

次は、AO入試II期の第2次選考です。上側、右側のグラフになります。これは面接なんですね。面接になりますと、ちょっと選択肢も変えているんですけども、「オンライン」というのが結構人気でした。それと、次は「面接中止」ということで、多分、この時期は高校側もオンライン面接ということに関して、結構期待を抱いていたのかなという気がします。これも変わらず実施してほしいということがあるんですけれども、面接は中止してもやむなしかなというのは、筆記試験よりは多かったという印象です。

それから、Ⅲ期ですね。これは共通テストが実施されたという前提で、第2次選考どうかということなんですが、これは面接は中止して共通テストで選抜してもいいだろうというのが一番多いという形です。

最後、個別試験ですね。個別試験では、あえて募集を中止するという選択肢を入れておきました。これはですね、これ強調したいんですけども、皆無です。つまり、この年の選抜見送ってもいいよという意見は高校にはなかったですね。やはり、地方会場、予定通りというのが多くて、個別試験中止してもいいよというのは、AOII期の第1次選考と似ているんですけれども、志願者、合格者を多く送り出してくる高校は、これは選ばないというようなところでした。

結果論から言うと、様々な懸念をしていたんですけれど、東北大学では全て予定通り実施することができました。ただ、そのときに自信を持ってできたのは、こういった調査が

一つ根拠になったかなと考えております。

つまり、受験する側は準備したとおりで実施をしてほしいということを基本的に強く思っている、という結果だったと考えています。

以上です。

寺尾:

どうもありがとうございました。

かなり貴重な高校へのアンケートで、当時の高校からのリアルな声も伝わってくるように思いました。地方会場を望む声が多かったことから考えますと、やはり、筆記試験は何が何でも実施してほしいという強い声が伝わってきました。合格者をたくさん出している高校の声だったということもかなり後押しになったんだろうなと感じました。

倉元先生, どうもありがとうございました。

第 3 期

第3期

 $2020.10 \sim 2020.12$

主な入試業務

総合型選抜・学校推薦型選抜の実施 (順次) 一般選抜の学生募集要項の公表 大学入学共通テストの出願受付 大学入学共通テストの監督者説明会 など

第3期のトークテーマ

- ・総合型選抜・学校推薦型選抜の実際
 - ・ 例年と異なる選抜方法をとった大学の事例
 - オンラインの活用
- ・感染拡大下の共通テスト・個別学力選抜を目前にした 戸惑い・不安と覚悟
 - 追試験受験資格
 - 試験監督者をはじめとする関係者の不安の声

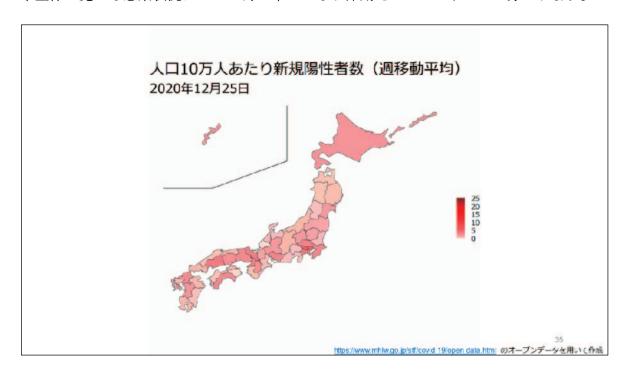
37

寺尾:

続いて、第3期へ移りたいと思います。

10月から12月の第3期ですけれども、第3回の緊急オンラインフォーラムは12月25日、 ちょうど今の時期ぐらいに実施をいたしました。総合型・学校推薦型選抜の本番が10月か ら12月にあったとともに、一般選抜の学生募集要項の公表なども行われます。試験監督者 の説明会なども行われる時期になります。大学入学共通テストの出願受付もこの時期です。

第3回のオンラインフォーラムは12月25日でしたが、第3波の魔の手が忍び寄ってきていることが分かります。この日の東京都の新規感染者数、新陽性者数は890人でした。日本全体で見ても感染状況はこの12月の末でかなり深刻だったということが分かります。



第3回のオンラインフォーラムではかなり厳しい感染状況下で共通テスト,個別学力検査を迎えることになりそうということがほぼ確定しました。それが確定的になった中で,本番を目の前にした心配や不安の声というのもたくさんお伺いしました。

例えば、体調不良の受験生がいたときに、本試験での受験を取りやめて追試験に回ってもらう際の条件であったり、あるいは、試験監督の先生方の配置などが挙げられます。何よりも入試に携わっていただく教職員の皆様におかれては、コロナがなかったとしても繁忙期を迎えられるにもかかわらず、例年以上に緊張感を求められ、さらに追加の対応が求められたという状況で、相当の負担がかかったのではないかと推察いたします。そういったお話もお伺いしました。

オンラインフォーラムで議論されたこと

- ・共通テスト・個別学力検査の追試験
 - ・追試験の受験資格について(共通テスト・一般選抜それぞれ)
- ・共通テストにおける例年以上に高度な対応
 - ・ 監督者説明会の工夫、センター試験からの変更点の共有
 - 試験監督者の配置(濃厚接触者の試験室など)
 - ・ 第二日程の実施
- ・特例追試験への対応(第1日程・第2日程との扱いの違い など)
- ・入試関係の教職員の過密スケジュール・過重労働,対面でなければできない業務など

36

入試シーズン直前のことについてお伺いする前に、まずは、第2期で共有いただいたお話の回収ということで、総合型・学校推薦型選抜がどうだったのかということについてお話をお伺いしたいと思います。

先ほどは選抜方法や日程などについてお話をいただきましたけれども、実際、当日スムーズにいったのか、それから、受験生、大学の教職員の皆様、あるいは、高校の先生方の御反応など実際のところを詳しくお伺いしていきたいと思います。

ここでも第2期でお伺いした順にお伺いしたいと思いますので、愛媛大学の中村先生からよろしくお願いいたします。

中村:

先ほど第2期のところで申し上げました、まず社会共創学部の総合型選抜ですが、募集 要項も予定していたとおりで発表しました。大学としてもコロナウイルス感染拡大等に備 えてはいたものの、社会共創学部の試験が行われたときには愛媛県もそれほど感染者が多 くなかったということで、予定した選抜は全て実施できましたし、高等学校や受験生から も特段の問合せ等はありませんでした。

また、2つ目の医学部看護学科の学校推薦型選抜は、募集要項発表の段階でグループディスカッションを実施しないということを公表したわけですが、試験実施のときには、文部科学省から出ていたガイドライン等を参考にして試験環境を維持するということを重点

に置いて, 問題なく実施できたということで, 特に混乱もありませんでした。 以上です。

寺尾:

中村先生、どうもありがとうございました。特に混乱もなく進んでいったというお話で した。

次に、九州大学の立脇先生、特にオンラインを使ったかなり画期的な選抜方法かと思いますので、特に詳しめにお話をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

第三期:総合型・学校推薦型選抜の実際

38

- ・1月の第2回緊急事態宣言時に多くの学部が総合型・学校推薦型を実施。
- ・19/36の選抜で何らかの変更を実施。
- ・大半は面接・口頭試問等を対面からオンラインに変更。
- ・面接以外では以下の様な対応をした選抜があった。
 - ・小論文⇒オンラインロ頭試問・面接 課題図書を用いた郵送方式にし、口頭試問を追加。
 - ・筆記の課題探究試験⇒オンラインで実施
 - ・作成課題⇒オンラインで実施
- ·年末年始の感染拡大により、変更の発表は1月に入ってから。

立脇:

本学では1月の第2回の緊急宣言時に多くの学部が総合型・学校推薦型を実施しまして、36の募集区分のうち19、およそ半数の選抜で何らかの変更を実施しました。大半の学部に関しては、面接、口頭試問を対面だったものをオンラインに代えるということで、これは比較的スムーズに変更ができるものでしたけれど、それ以外として以下のようなものがございました。

例えば、小論文を対面で実施する予定だったものをオンラインでの口頭試問と面接に切り替えた学部、小論文を課題図書を用いて郵送方式でレポートを提出してもらう、その代

わり、口頭試問を新しく追加するということを実施した学部、さらには、筆記の課題探求 試験をオンラインで筆記試験を行うといった学部、あとは、作成する課題をオンラインで 実施した学部もございました。

発表に関しましてはかなり遅くて1月に入ってから発表となっております。

第三期:総合型・学校推薦型選抜の実際

20

①接続トラブル

- ・ほとんどの学部で生じなかった。
- ・事前接続テストが特に有効だった
- ・大学のネットワークや通信ソフトの大規模障害への対策が必要。

②学部からの感想

- ・オンライン面接…比較的実施しやすい。遠方の受験生への積極的利用も可能。
- ・小論文から口頭試問…代替できるか?十分見ることができない能力は?
- ・初年度だったため、担当した教員は精神的・肉体的に疲弊。
- ・技術的に可能でもトラブル回避のために、シンプルな方法がよい。

本学で今年の5月に半分の学部に対して実際実施してみてどうだったかということを聞き取り調査を行いました。

その結果、まず接続トラブルに関しましては、ほとんどの学部で大規模なものは生じておりませんでした。これに関しては、特に有効だったものは事前接続テストの実施です。これを高校生1名1名に対して実施したことで、当日のトラブルが最小限になっておりました。

ただ、受験生のトラブルというのは少なかったんですけれど、大学のネットワークが、例えば、ダウンしたりとか、通信ソフトの大規模障害、具体的に言いますと、入試の1週間前にある有名なソフトが全世界的に使えなくなったということがございまして、こういう場合には入試そのものができなくなるということで、これは一学部とかの単位ではなくて大幅なバックアップ手段等を事前に検討しておく必要があるかと思います。

あと学部から具体的に出てきた感想としまして、オンライン面接に関しては比較的実施

をしやすい。これはコロナが落ち着いても遠方の受験生に対して積極的に利用するという こともオンライン面接だけなら可能かなという感想もございます。

小論文から口頭試問等,やり方自体を大きく変えたものに関しましては,やはり,学部としてもかなり迷いがございました。本当に代替できているのか,十分に見たい能力が見られているのかということで,これについては入った学生に関して検証が今後も必要であるうということになっております。

実施した大学教員もそうですし、高校の先生方、受験生もそうですけれど、精神的、肉体的な疲労がすごかった。具体的に言いますと、コンピューターを使うテストが多かったので、比較的年配の先生よりも中堅どころの、コンピューターに詳しい先生が中心になって回していたところが多かったです。その先生方、担当だった先生方は例年の2倍から3倍の時間実施してマニュアルを作成したり、すごく印象的だったのが、総責任者だった先生が試験の1週間前はずっと血圧が普段よりも20から30高かったというような話もございました。やはり、綱渡りで実施していたということが本当に率直な感想でございます。

もう一つ、技術的に可能な機能でもなるべくシンプルにソフトを使ったほうがいいということで、ある学部があるソフトに特有の機能を使った入試を実施しようと思っていたんですけれど、試験の2週間前にその機能を仕様変更されて使えなくなったということがございました。

ですので、特定のソフトに特有な機能に依拠した入試というのは難しいので、なるべくシンプルなものにしたほうがいいということもございました。

具体的なこととしては以上になります。

寺尾:

立脇先生、どうもありがとうございました。かなりリアルなお話をお伺いできました。 私から2つ細かいことでお伺いしたいんですけれども、先ほど緊急連絡先の話がありま した。実際、その緊急連絡先に電話するような対応というのはあったんでしょうか。

立脇:

例えば、画面等が途切れた場合には、真っ先にまず電話をして、そこで指示をしました。 ある学部では通常の面接時間を流していて、最後の時間に実施するのでそれまで待機して くださいという指示をしたり、別な学部では、もともと10分で終わる面接を、15分、20 分取ってあったので、続けて行いますというようなことを電話で指示をしたということで 対応しました。

寺尾:

ありがとうございます。

もう一つは、この学部からの感想のところで、特にオンライン面接、比較的実施しやすかったという声があったということだったんですけれども、特に学部の違い、理系の先生のほうが比較的実施しやすかったという感想をお持ちなのか、あまり学部によらなかったのか、そのあたりはいかがでしょうか。

立脇:

これは中身のところにも入ってくるんですけれど、例えば、志望理由であったりとか、 高校時代何をしてきたかというように、かなり総合型・学校推薦型では一般的な質問中心 の場合ですと、どの学部でも比較的好意的でした。一方で、口頭試問や正誤があるような タイプのものになってきますと、これでいいのか、順番をどうするのか、同時に行うのを 何人までやるのかというようなところで慎重になります。学部というよりも聞いている内 容による違いのほうが影響が大きかったです。

寺尾:

どうもありがとうございました。

名工大の林先生,英語4技能に代えて評点平均3.5以上というのを出願要件に含めておられましたけれども,実際,志望者数,あるいは,志望者の層の変化,高校の先生方の受け止めなどはいかがでしたでしょうか。

林:

幸いですが、志望者の数という意味ではほとんど変化はありませんでした。そういう意味で、ありがたかったなという気はしております。

高校の先生方から直接はお聞きしていないのでここではお答えできないのですけど、名 工大のそれぞれの選抜というのは比較的小さな単位でおこなわれています。学校推薦型選 抜の共通試験を課すもの・課さないもの、及び総合型選抜全部合わせても129名で、募集 定員の14%ということでした。御存じのとおり国大協では30%まで上げるということを 言われていますので、そういう意味で、我々はまだ道が半ばなのですが、それが逆に功を 奏して、それぞれの単位が小さいがゆえに集中、密を避けるという入試には適していたと いうことがあります。

それと、総合型選抜に関しては、実は、3名しか募集定員がございません。しかもこれは高校でデザインを履修している者ということで、普通科というよりはむしろ工業等の課程を経過している生徒さんに対するものでしたから、もともと特殊な志願ということになっていましたので、あまり影響がなかったというのが本学の状況でございました。以上です。

寺尾:

どうもありがとうございました。

それでは、いよいよ直前期のリアルなお話に迫りたいと思います。

まず、名古屋大学の石井先生にお伺いしたいんですけれども、コロナ禍で迎えることが 濃厚となった12月下旬に関係者の先生方、あるいは教職員の皆様、どういった戸惑いや不 安があったのかというのを詳しくリアルに教えていただけますでしょうか。

石井:

この時期, 感染者数がとても増えてきた時期でした。ですので, 監督をお願いする先生 方にも, 単にお願いしますというのも難しいような状況でした。

なぜかといいますと、先生方の中に持病を抱えている方がいらっしゃいますし、別室を増やすと予備監督者を増やすということが必要になってくるわけですが、持病を持っていらっしゃる先生方にお願いするのは難しかったです。また、お願いしようと思ったときに、土日ですので、保育園が準備がある、特別な保育をお願いするかしないか、という問題も出てきて、人員の確保がまず難しい。

これにはもう一つ遠因があります。どういうものかというと、特任教員が非常に増えてきたということです。特に国立大学などは、特任教員が教員の比率の中で増えてきました。特任教員には、その方の任務以外の仕事はお願いできないんですね。いわゆる特任ではない教職員で監督というものを回していかなければいけないとなってくると、その数が減っ

ているわけです。

減ってきているところに予算がないので若い先生が採れないということになっていて, 教員全体の年齢が高齢化していく。そうすると持病を持った先生が増えて,そういった先 生方に監督をお願いするのが難しくなってくる。女性教員の比率を増やすということも言 われておりますが,残念ながら,今,女性教員に家事,育児の負担がかかっているのが日 本の現状です。そうすると保育園の問題が出てくる,コロナだけの問題ではなくてそうい ったところから解決しなければいけない,そういう大きな問題になっていったということ です。

受験生の受験を守るということに加えて、大学としては先生方の安全を守るということ も考えてやっていく、この中でどうやってやっていくのかということが非常に難しかった です。

濃厚接触者についてもどのように考えるかということも大きな議論になりました。共通 テストの場合には無症状の濃厚接触者は、公共交通機関を利用しないで会場に来られれば 受験させるという方針だったわけですが、個別試験になると近隣に住んでいる者はそうい ったことも可能かもしれませんけれども、遠くに住んでいる方が公共交通機関を使わない で来るというのはかなり至難の業になってきますので、共通テストと同じようにするのか と言われるとちょっと難しいところがある。

さりとて、無症状の濃厚接触者は受験しないでくださいというようなことを言うと、今度は追試があるからといっても、受験生の心理からするとこっそり受けに行ってしまうというようなことがあって却ってよくないのではないかということで、無症状の濃厚接触者をどのようにしたらいいのか、学内でも受けさせるべきか追試に回すべきかと、かなりいろいろ議論をして、最終的には追試に回ってもらうという判断をした。結果としてはほとんどおりませんでしたけども、非常に悩んで議論した時期だったと思います。

以上です。

寺尾:

石井先生、どうもありがとうございます。

お話をお伺いする中で、濃厚接触者となった、無症状の濃厚接触者となった受験生の対応というところの難しさ、ハードルの高さというのを感じさせられました。

その中で、愛媛大学では共通テストの直前期にかなり独特な対策を実施したとお伺いし

ました。その具体とともに関係者の不安、こうした対策に対する受け止めがどうだったのかということについて中村先生にお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

中村:

そうですね、まず、これは全大学共通ですけども、大学入学共通テストの初年度であったこと、それから、愛媛県の場合、試験場が県内3か所になっていまして、そのうち2か所が愛媛大学のキャンパスになっています。そのため、教職員や学生を含む大学関係者がコロナウイルス感染ということになると、試験実施にも、実施体制にも影響が及び多方面に多大な影響が出るということを想定しまして、大学内の上層部の判断で決まったと聞いておりますが、共通テストの安全・安心な実施と、年末に帰省した学生に対する授業での安全面への確保の両面から対策を検討したということです。

具体的には、愛媛大学では12月までは対面の授業も5割程度実施していましたが、年明けの授業開始から2週間は学生に対しても全面的にオンラインのみの授業としたり、学生や教職員に対して感染拡大地域への移動自粛を要請して、万が一移動した場合にはきちんと自宅待機の期間を設けるということを要請していました。

そのため、実際に共通テストの際には混乱なく実施することができました。 以上です。

寺尾:

中村先生、どうもありがとうございます。

私がこのお話をお伺いしたときにはかなりびっくりしたなという記憶を持っております。 キャンパスへの入構制限であるとか、あるいは、帰省した学生の自宅待機というところも、 共通テストに向けて着々と準備を進めるともに、関係者の不安と覚悟というのを反映して いたんだなというふうに思いました。ありがとうございます。

第3期の最後に、コロナ禍の混乱の中で生じた東北大学での入試業務のヒヤリ・ハット 事案とも言うべきものでしょうか、倉元先生に詳しくお話をお伺いしたいと思います。お 願いできますでしょうか。よろしくお願いいたします。

倉元:

非常に話しにくい題材なんですけれども、入試ミスと言われてしまうとちょっと問題が

あるかなという気がします。ここにおられる西郡先生がかつて入試ミスの研究をされて, 非常に今参考になるレファレンスになっています。

通常通りの入試ができないということは、その時点で問題がある。ただ、ミスとは言えないレベルもある。入試ミスなんですけども、その重篤性という意味で言えば、いわゆる合否判定に影響があったり、それが発見されるのが遅れて合格者を追加で出さなければならなかったりというような事態というのは深刻なわけです。まず、名誉のために、そこまで至ったものは一切ございません。それでも、正直、危なかったなという話があるんですけども、これは、1つはコロナの感染とは直接は関係ない話です。もう1つはコロナと大いに関係する話です。

コロナ自体と直接関係がないほうでいいますと、最初に第1期のところでも私、お話しした記憶があるんですけれども、とにかく、昨年コロナが始まってから対面での作業というのが止まった時期がありましたよね。入試業務っていうのはどうしても対面作業が中心になるので、その後で感染状況が収まってからある程度対策を取って対面で作業ができるようになったとしても、キャッチアップしていくのが非常に大変なんですよね。

それぞれ業務を抱えていての中の入試だったりするので、いっぱいいっぱいで、一つ一つのことに通常以上のアテンションが割けない状況で勤務をしている、これは最初から懸念をしていたところだったんですけども、その影響がいろんなところでやっぱり出ましたね。

実際、ホームページで訂正を行った、ちょっとした――というのを実施のほうから言うといけないかもしれないんですけれども――解答には必ずしも影響しなかった部分での試験問題のプリントミスだとか、いわゆる誤植のようなものだとか、ふだんではちょっと考えられないミスが出ました。

あと、深刻なのは事務側のミスですね。これは普段ないんですよ。あり得ないんですよ。ところが、本当にちょっとした点検、どうもマニュアル通りやれていないというのが最終的には原因になるんですけれども、点検のところでスキップしてしまったがために、それに関連する問題が発生するというようなことが、この時点で終了しているAOII期で頻発しました。正直、大学の中ではこれ以上ミスを出さないように、かなり緊張した、普段とは違う体制も取ったんですけれども、その後も正直幾つかヒヤリとする事案があったということはあります。

ですので、まず御理解いただきたいのは、高校側にもそうだったんですけれど、地方会

場なんてそう簡単にできません。希望はお応えしたい、だから、選択肢に入れたんだけれども、今の体制でやってくださいと言われるのは無理です。要は、ぎりぎりの体制の中で何をどこまでできるのかっていうのはトレードオフの関係で考えなきゃいけないかなっていうことは非常に突きつけられた気がします。

もう一つ,この時期で言うと、共通テストのときの話なのですが、これは肝を冷やしたなという話があったんです。共通テストの設営が終わって、前日ですね、幾つかの大学で共同して実施をするんですが、東北大学と共同して実施をしているある大学で、コロナと疑われても仕方がないような症状が出た事務職員の方がいた。どうしようかという話になって、やっぱり、その方と濃厚接触が疑われる方も含めて当日業務に当たれないという状況が起こったんですよ。

この入試業務というのは意外と細かいところで専門性が高くて、ある共通テストのある部分の業務をそのグループにずっと受け持ってもらっていたものですから、そこは大変でした。当日までどう体制を整えるかというので結構バタバタしました。土日で休みになっているはずの、入試に詳しい、もうほかのセクションに移った職員を急遽かき集めて何とか実施にこぎ着けた。こういうリスクは、コロナが収まらない限りきっとあるんだろうなと思っています。

以上です。

寺尾:

どうもありがとうございます。

こちらもかなりリアルなお話をお伺いしました。対面でしかできない作業ということで、特に紙を突き合わせて点検するような作業は、マニュアルに沿って一個一個確認していく作業が伴うでしょうから、対面の業務が制限されたということの制限がかなりあったんだろうなと思いました。また、入試に関わってくださる事務職員の方が、かなりエキスパートの業務を担っておられるということで、一網打尽にアウトになってしまうとそれなりにリスクがあるという怖さも感じさせられました。ありがとうございます。

第 4 期

第4期

 $2021.1 \sim 2021.3$

主な入試業務

大学入学共通テスト(本試験・追試験) 共通テストを課す総合型選抜・学校推薦型選抜の合格発表 個別学力選抜(前期・後期)と合格発表 追加合格の発表 など

寺尾:

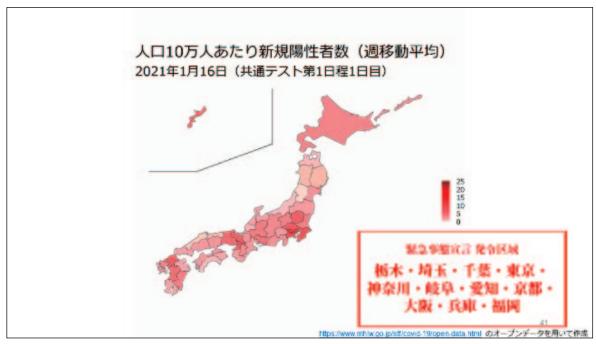
それでは、第4期のほうへ移っていきます。

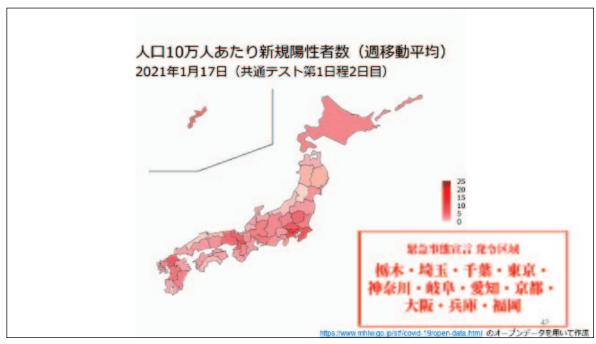
第4期、いよいよ本番です。大学入学共通テスト、本試験、追試験、特例追試験がありました。さらに共通テストを課す総合型選抜・学校推薦型選抜、合格発表があります。さらに個別学力検査、そして合格発表、追加合格発表があります。

日本地図ですけれども、こちらはオンラインフォーラム自体は2021年4月に実施しております。ここだけは試験当日の感染状況をレビューしたいと思います。

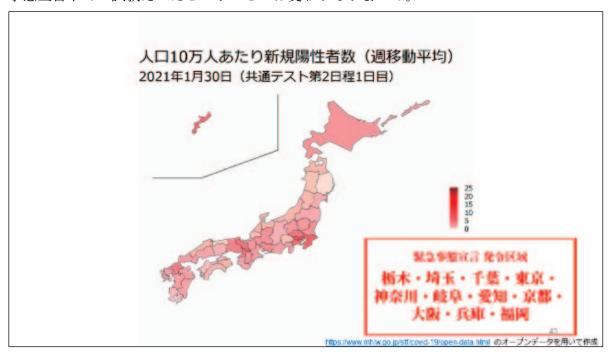
共通テスト第1日程の初日は最も深刻な状況であったと言えます。緊急事態宣言が栃木、 埼玉、千葉、東京、神奈川、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡に出ていました。史上 初めて緊急事態宣言下の共通テストになりました。

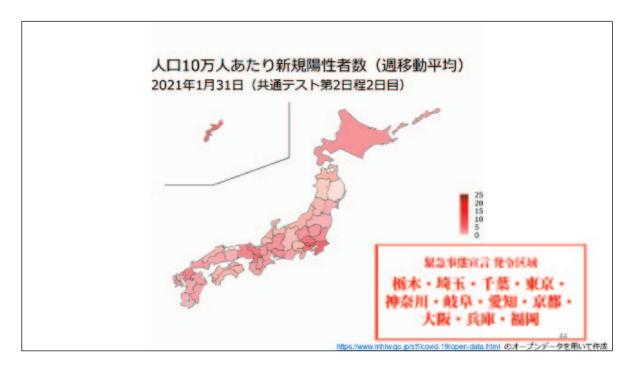
2日目も同様で、多くの受験生が何事もなく試験を終えられたことを願うばかりでした。



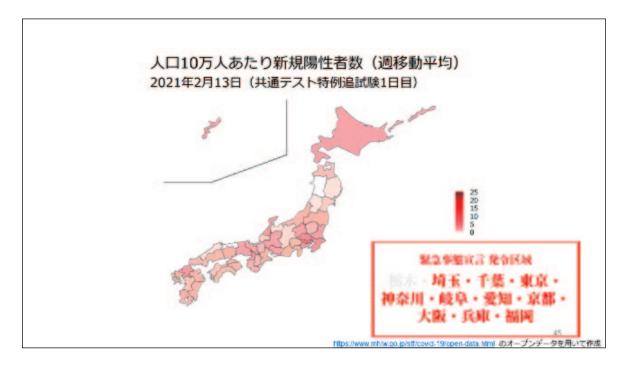


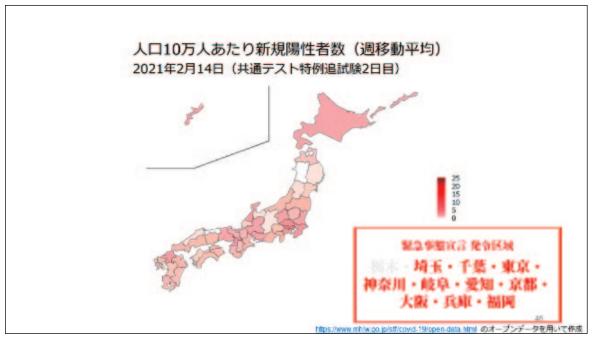
第2日程です。第1日程よりも幾分感染状況は改善したようですけれども、それでも緊急 事態宣言下での試験だったということには変わりありません。



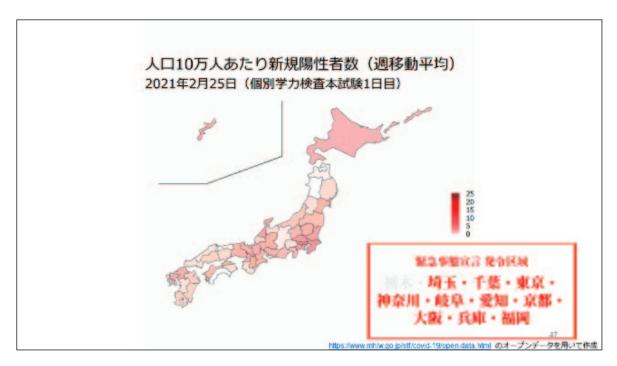


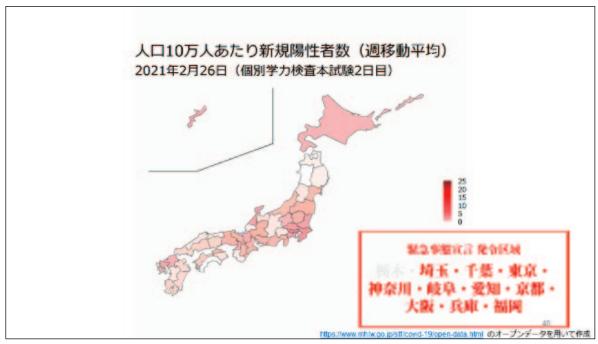
特例追試験です。2月13日、14日ですけれども、第1日程、第2日程との違いは、栃木県が緊急事態宣言から外れたということです。



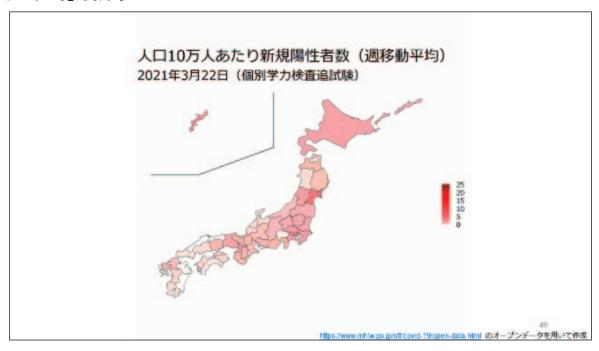


国公立大学の個別学力検査,本試験1日目です。人口の少ない県では感染状況がかなり 改善したようですが、大都市圏は依然として厳しい状況でした。





これは個別学力検査2日目で、3月22日に個別学力検査の追試験が実施されましたが、 ここではまた感染者数が戻ってきています。人口の多い都道府県はさらに赤が強まってい るように見えます。



大学入学共通テストの受験者数を表にしてお示しをいたしました。

大学入学共通テストの受験者数					
内訳	人数				
本試験(1/16, 17のみ)	482,088				
本試験(1/30, 31のみ)	536	出願時の希望:第二日程 解 答:第二日程			
追試験(1/30, 31のみ)	1,021	出願時の希望:第一日程 解 答:第二日程			
特例追試験(2/13, 14のみ)	1	出願時の希望:第二日程 解 答:特例追試験			
再試験(1/30, 31のみ)	10				
本試験(1/16,17)+追試験(1/30,31)	407	出願時の希望:第一日程解答:			
本試験(1/16,17)+再試験(1/30,31)	51	第一日程と第二日程が混在			
https://v	www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=	<u>abm00040280.pdf&n=(報道資料)実施結果の概要.</u> 			

大多数の受験生は希望する日程で試験を受けることができたようですが、一部の受験生は希望の日程では試験を受けることがかないませんでした。後の日程で受けたということ

になります。

なお,赤字の部分全てがコロナ関連ということではない点,御了承いただければと思います。

オンラインフォーラムで議論されたこと

・共通テストの実施

- ・センターガイドラインに沿って無事に終了しつつも, 臨機応変の対応が求められた大学もあった
- ・共通テスト第二日程を実施した大学では、小さな人数規模で あっても倍の入試業務負担が求められた

個別学力検査の実施

- ・追試験作成・実施へのエフォートと人数規模との関係 (入念に準備しても、受験者数ゼロとなる場合がある)
- ・本試験受験者と追試験受験者の合否判定基準の異同

51

さて、1月から3月の第4期を駆け抜けた後、4月にお話をお伺いしたわけですけれども、第4回のオンラインフォーラム、怒涛の中で入試シーズンを終えられた先生方に実際どうだったのかというリアルな声をお伺いしました。共通テストや個別学力検査の実施の真に迫ったお話をお伺いすることになった次第です。私自身、大学入試センターにいる身として身の引き締まる思いをしたということをよく覚えています。

共通テストの第2日程を御担当いただいた大学では、さらに倍の業務負担が求められたという点についても教えていただきました。

さて、第4期のトークテーマですけれども、令和3年度入試は怒涛の中で本番を迎えることになりました。第4期は実施のリアルをお伺いしながら、考えておいてよかったこと・ 予期しなかったことという切り口で整理してみたいと思います。

第4期のトークテーマ

- ・考えておいてよかったこと・予期しなかったこと
- ・共通テスト・個別学力検査実施のリアル
 - 追試験受験者はあとがない
 - 保健室、濃厚接触者、試験監督者、受験生の様子
 - ・本試験としての第2日程(出願時にあらかじめ希望)と 追試験としての第2日程を同時かつ独立に走らせることに なった苦労
- ・共通テスト特例追試験への対応、個別学力検査の追試験

52

まず、試験実施のリアルに迫るエピソードとして、名古屋大学の石井先生のお話がとて も印象的だったのを覚えています。共通テストの実施の中で濃厚接触者試験室の試験監督、 あるいは、追試験受験者の対応のリアルなお話をぜひ詳しくお伺いできないかと思うんで すけれども、石井先生、いかがでしょうか。

石井:

名古屋大学は、まさにその第2日程と追試験と両方担当するという大学でした。ですので、同じ試験ではあるんですが、いわゆる監督者マニュアルからして違いますので、全然違う試験を2つ同時並行におこなっている、しかも入試課は1個しかありませんので、1つの入試課が2つの違う共通テスト2年度分を一気にやっているような状況でした。

特に追試受験者はその後特例試験は受けられない、後がないので、追試受験者はここで 頑張るわけですね。そうしますと、どういうわけだか人数的には本試のときのほうが受験 者数が多かったのに、追試のほうが保健室利用ははるかに多かった、別室の数も何倍も多 かったということになりました。

追試を体調が悪くても受けに来ている、おでこに冷えピタを貼っている生徒とか、熱っぽいので、「熱を計る?」とこちらが聞くんですけども、そこで7度5分あったらアウトなので、「いや、計りません、大丈夫です」と熱を計らせてくれない受験生とかがいました。

あまりにも症状がひどかったら監督者のほうで止めるということが可能なんですけれども、 そこまででもないというか、受験する機会を奪うことになりかねないので、そこまでは手 を出せない。どこぐらいから、「君、保健室へ行こう」と案内していいのか、非常に判断 に迷うケースが、特に追試受験者の中にはありました。

また、緊張感が高まってなんでしょうか、ちょっと不安が高まってしまって手がつかないということで保健室に行くというような方がいまして、そうすると、そういう方に関しては試験時間は刻一刻と過ぎていってしまうわけです。でも、試験時間中に教室に戻るとか、戻れないとかいうことでタイムリミットをどう設定したらいいんだろうという、この辺に関しては特にマニュアルもないので、保健管理センターの先生と相談しながら対応しました。結局、その子に関しては受験を辞退したかな。保護者に連絡を取ったり、そういったことがいろいろ発生しました。

そして、調子が悪いという人がおとなしく別室に行ってくれればまだいいんですが、おとなしく別室に行ってくれない方の場合には、ほかの方が、特にその席の周りの人が、私が別室に行きますということがあり、それをしますとその人のために別室を準備して、そこから試験を再開してみたいなことをやると、試験時間が30分、1時間と延長していくということになります。そういったことがいろんなケースで発生しまして、試験時間が同時でない、アメリカの時間が4つぐらいあるのと同じように、ここの試験室は何時から何時まで、あそこの試験室は何時から何時までみたいな感じでいろんな試験時間が同時並行で流れていくという、それを全部管理していかなければいけないということが発生して、第2日程と追試験は一緒にやるもんじゃないということをとても感じた次第です。

以上です。

寺尾:

どうもありがとうございました。

試験時間カウントの話、かなり興味深くお話をお伺いしました。ほかでは聞くことのできないお話をお伺いできたものと思っています。ありがとうございます。

試験室つながりで名工大の林先生にもお伺いしたいんですけれども、名工大では体調不良者のための別室の設置を進める中でいろいろと困ったことといいますか、緊急出動のようなこともあったということだったんですけれども、このあたり詳しくお話をお伺いできないでしょうか。

林:

全国的にどの試験会場も初めてのことであり、また、受験生自身も当然受験は初めてということで、これまでも入試の本部等にはいたわけですけど、当日は本当に緊張感があったということは今でもリアルに覚えています。

御存じのとおり、特に初日というのはそれぞれの試験室に受験生を送り込まないといけない、しかも、開始時刻は決まっているということで、一種時間との勝負という中での受験生の受入れになります。入構する段階で発熱者が、もしくは、本人が熱がありそうだということになってきますと、大学としては別室をつくっていくということになります。昨年に関しては、本学、もともと1.3倍の受験者(注:試験時間を1.3倍に延長する受験上の配慮を希望する受験者)を受け入れておりましたので、もともと別室があり、それに応じて予備試験監督者というものもリストアップはしておったわけですが、発熱とか体調がすぐれないという申出に対してそれぞれ対応をさせていただいた結果、予備試験監督者が枯渇をいたしました。私は本来は出ていってはいけないんですが、行かざるを得ないことになって、1コマだけでありますが、試験監督をさせていただきました。

監督側・本部側とともに、受験者側も非常に緊張した中でやりましたので、なかなかどう対応するのがよかったかというのは難しかったように思います。ただ、試験が始まってしまえば受験生も教室に入っていますので、その中で別室を、ある程度間隔が取れる部屋があると判明した段階で、次のコマから受験生を別の部屋に移動する形で試験監督者の数を減らすという対策ができました。けれども、やはり、朝の一番の寒い中でいろいろの申出がある中でどういうふうに対応するのが一番運営としていいのかというのは、ケース・バイ・ケースでやっていくしかないという中で非常に緊張しておりました。私以外の者もその状況を見ていたんですが、後々になって、あのときはすごくシビアだったねという話をしたのを今でも覚えております。この1月は多分、同じような状況になるかと思うと、やはり、気を引き締めて1月対応していかねばいかんなと思っておる次第です。

寺尾:

ありがとうございます。

続いて、個別学力検査のほうの追試験対応についてもお伺いしていきたいと思います。 各大学で対応を練り上げられたものと理解していますけれども、蓋を開けてみると、個別 学力検査の追試験, 受験者ゼロ, あるいは, ごく僅かだったということだったのかなと認識しています。

この点について, 九州大学の立脇先生, お話しいただけますでしょうか。

第四期:一般選抜の追試験

53

- ・受験者7名。トラブルなく終了。
- ・科目は「数学・英語の総合問題」「小論文」「面接」から学部が選択。
- ・「総合問題の全受験生の平均点」に加えて、「本試験の共通テストや 個別試験の平均点」等を参考に査定。

立脇:

九州大学は、前期、後期、一般選抜合わせまして大体7,000から8,000名受験しておりますが、そのうち実際に追試験を受験した人は7名でした。ですので、割合としては0.1%ということになります。

実施自体はトラブルなく終了いたしました。

ただ、本学、前期試験と後期試験、併せて1日で行うという日程だったこと、さらには、 理科や社会に関しまして、科目単位で実施した場合、1科目で受験生が1人ということになってしまいますと、合否判定にどう使えばいいのかということで難しさもあります。

ですので、本学では、全学生が共通して受ける数学と英語に関しては総合問題という形で試験をつくりました。ただ、そのほかに関しましては、小論文や面接等を学部が選択して、この3つから組み合わせていくという形で実施をしました。

具体的に、査定はどういうふうに行ったかといいますと、総合問題に関しましては、全 受験生7名の平均点を各学部に配付しますし、あとは、本試験の共通テストや個別試験の 平均点というのを学部に対して渡して、それらを総合的に判断して合否判定を行うという 形で実施されました。

以上になります。

寺尾:

立脇先生, どうもありがとうございました。

第4期の最後のトピックになります。共通テストの特例追試験対応という観点から,一般的なお話ということで名工大の林先生にお伺いしたいと思います。共通テストの特例追試験を受けた受験者が出願した場合に備えて,特別な出願期間を別に設けられたというお話で,さらにその日程設定がかなりタイトだったというお話をお伺いしました。このあたりを教えていただきたいのですが,よろしいでしょうか。

林:

それは、今、おっしゃられたとおりで、別に名工大だからということではなくて、国大協のほうからガイドラインが出ておりまして、個別試験の追試験は3月22日に行いましょうということがガイドラインとして出ておりました。

本学に関しては、前期日程を受けようとしていた受験生、もしくは、後期日程を受けようとしていた受験生のどちらについても3月22日で対応しようというふうに考えておりました。実際には志願する者がいませんでしたので、この日には何もしておりません。ただ、大学としてはそのために試験問題の準備をする必要がありました。

幸い、本学は以前から予備問題というのは持っておりましたので、それを今年使う可能 性があるということで準備はしておったということであります。

御存じのとおり、3月22日というのはもう目の前に新年度が迫っておるところでありますので、人数がたくさんになれば合否判定等の作業もかかります。実際はいなかったわけですが、いたとしても多分片手、もしくは二桁いくぐらいでしょうから、その中で臨機応変に対応するしかなかったということであります。幸い、本学にはそういう志願をされた方がいなかったということで、事なきを得たということになっております。

寺尾:

どうもありがとうございます。

総括 緊急事態下の各大学の入試を俯瞰してわかること

寺尾:

皆様には90分かけて2020年度の怒涛のコロナの下での大学入試を振り返っていただきました。

それでは、ここからは佐賀大学の西郡先生にバトンタッチして、「総括 緊急事態下の 各大学の入試を俯瞰してわかること」と題して、ディスカッションを進めていきたいと思 います。

西郡先生, どうぞよろしくお願いいたします。

西郡:

佐賀大学の西郡です。ここからは私が司会を進行していきたいと思います。

これまでは一連の流れに沿っていろいろとパネリストの先生方に御発言いただきました けれども、ここはプレイバック座談会という会の大きな趣旨に沿って自由に進めていきた いと思います。

その前に、先生方のいろいろな報告を聞いて私なりの感想を少し最初に発言させてもら いたいと思います。

私の所属している佐賀大学はこのオンラインフォーラムというものには入っていません。 ですので、この会の話を、司会の依頼があったとき、そんなことやっていたんですねと、 羨ましいなというのが率直な感想です。

もちろん、佐賀大学でも個々につながりのある大学と確認をしながらいろいろと検討を 進めていったわけですが、こうした新型コロナにおける緊急時の大学同士の情報交換がい かに重要なのかということを改めて思い知りました。

その中でどこまでそれぞれの大学で検討していくことになるのかとか、検討していかなければいけないのかということになってくるわけですけれども、どこまで見通してというところが非常に難しいところがあると思います。

名古屋大学の石井先生からの話の中では、かなり詳細にシミュレーションされていまして、あの資料を見たときには本当に驚かされました。確かにいろんなケースを考えると、

共通テストが実施される、しないとかですね、いろんな場合分けをしていくと無数にパターンが出てきます。県境をまたぐのがOKなのか、OKじゃないのか、そういった状況まで加味すると詳細なシミュレーションというのが非常に難しいということは、多くの大学で感じられてきたところではないかと思います。

そうした中で、やはり、共通テストが実施できるか、できないかというところはとても 重要な点で、個別試験も含めて、コロナにおける入試の対応として非常に重要な前提にな ったのではないかと思います。改めて共通テストの重要性を、私としては再認識したとこ ろであります。

一方で、追試験をどのように考えていくかというところで、受験生を保護しようという 観点から言えば、追試験を設けてしっかりと対応していこうということになっていくわけ です。追試験をするということはそれなりに問題作成をしなければいけないということに なります。そうしたときに、一般選抜の個別試験の予備問題をもちろん準備していますけ れども、それ以外にも新たに入試ミスが出ないようにもう1セットつくらなければいけな い。そうなると、問題作成の体制というのが非常に脆弱化している中で、さらに追加の問 題作成をお願いするのは非常に厳しいというところが佐賀大学にはありました。

そうした中で、過去問の共同利用活用宣言にこれまで入っていなかったんですけれども、 そこに参加することによって追試の問題を準備していこうということになりました。

一方で、総合型選抜とか学校推薦型におきましては、我々もオンライン面接とか、そういったことの検討はしたんですけれども、私たちの大学でタブレットを使った入試をこれまで平常時でもやっていまして、いかにそこで試験を公平性な環境で行うことが難しいかを感じていましたので、オンラインでやるというのは極めて難しいだろうなということで、総合型選抜も学校推薦型も全て追試を実施するということで対応したところであります。

そのように、いろいろとやってきたわけですけれども、今日改めて各パネリストの先生 方の報告を聞いて、やはり、いろんな考え方で検討されているのだなということを改めて 感じたところであります。

将来の緊急事態に備えて

- ・緊急事態における入試の「共同歩調」と「個別判断」
 - ・国で(大学で足並みをそろえて)判断すべきこと
 - 個別大学で判断すべきこと
- ・緊急事態における公平性・公正性の確保
- ・共通テストの成績提供を予定通り行うことの重要性
- ・選抜方法・日程の変更が想定される中での受験生に 安心してもらうための「基本的考え方」
- ・新型インフルエンザのときとの共通点・相違点は?

55

トークテーマとしては様々な観点があると思いますけれども、今日お話しされた共通的な部分の要素を入れています。ここにありますように、緊急事態における入試の共同歩調と個別判断ということで、国で判断すべきこと、個別大学で判断すべきこと、いろいろあったりすると思います。

また、緊急事態における公平性・公正性の確保であったり、共通テストの成績提供を予定通り行うことの重要性であったり、ほかには選抜方法、日程の変更が想定される中での受験生に安心してもらうための基本的な考え方、そして、倉元先生の話にもありましたけれども、新型インフルエンザのときとの共通点、相違点、様々な切り口を準備しましたが、これに捉われずにもっとここの部分を振り返りたいという点がありましたら、各先生方に発言をお願いしたいんですけれども、先生方、いかがでしょうか。

それでは倉元先生、お願いいたします。

倉元:

まず、最初の観点に関係することになるのかなと思うんですけども、先日、大学入試センターセミナーでコロナ対応の国際比較というのをやったんですね。このとき、アメリカ、イギリス、それからフィンランド、韓国の事例が出てきたんですけれども、全体として比較してみると、韓国と日本は非常にコロナ対応をうまく――うまくというのは語弊がある

かもしれませんけれども——受験生の不利益を最小にするという形でやった国なのかなという印象があります。

その中で、特に日本の意思決定の特徴というのは、まず、国が1つ指針をポンと示すということですね。コロナ感染症に対して、具体的には実施の場面で、例えば、席をどのぐらい離せばよいかとか、どういったことをふだんとは違って注意しなきゃいけないかみたいなことは一律示していただけたということで、各大学が安心して実施できたというところがあったんじゃないかなと思います。

もう一つが、やはり、意思決定の主体というのは各大学なんだなというのをまざまざと 強く思ったところです。何が抜けているかというと、多分、大学間が協力をして何かする というの、今の体制だと非常に難しいのかなということを感じたんですね。

最初の頃に、とにかくコロナというのがこんな形で、波で来るということも分からなかったときに、例えば、9月入学の議論がありました。最初、私は9月入学はいいなと思ったのは、その間に国立大学なら国立大学、私立大学も含めて議論をして、県境を越えた移動をしなくても受験生が受験できる環境というのを共同でつくることができないかな、みたいなことを考えていたのです。これは、多分、本当に今のところただの妄想なのかなという気がしています。

だから、今後、もし何か大きなステップを踏むとすれば、そこのところ(大学間の連携 と協働)が必要なのかなということは思ったりもします。ただ、これは非常に実現するの は難しいということは同時に感じているところです。

ただ、いずれにしろ、受験生のことを思ってというのは各大学共通だったんだなという気がします。そういう意味では、東北大学の人間としては、個別試験の重要性をもうちょっと分かってほしいなというところはあります。というのは、それはそれぞれの大学のアドミッションポリシーに応じて何を重視した選抜をしているのかということにもよるんだと思うんですけれども、やはり、いわゆる日本の緊急事態宣言のような緩い形じゃなくて、本当に社会機能が止まってしまうようなロックダウンの状況でも起こらない限り、やっぱり、受験生には準備してきたものを出す場を提供してあげたいなというのが改めて思うところでございます。

西郡先生, いかがでしょう。

西郡:

ありがとうございます。

倉元先生は、以前から受験生保護の大原則ということで大学入試を考えていくべきだということを御主張されていますけれども、まさにその視点に立った御発言だったというふうに解釈しております。

そのほか先生方,今の御発言を受けて何か,私はこういうふうに考えているとか,こういうふうに今後やっていく必要があるんじゃないのかという意見があればよろしくお願いいたします。

それでは、林先生、お願いいたします。

林:

非常に今回手探りっていうんですかね、走りながら考えて何とか対応できたという気がしています。特に国立大学の場合は前期、後期という形で日程をそろえてやっているわけですから、国立大学協会にも今回音頭も取っていただきましたし、そういう形でやらざるを得ないのかなという気がしています。そういう意味で、国大協の役割は重要になってきたんではないかという気がしております。

逆に言うと、今日も冒頭から申し上げていますけど、私は現在非常にコンパクトな大学にいて助かったなという気は、ひしひしとしておりまして、ほかの先生方、特に学部数が多い、定員が多いというところは相当やはりお困りになるんだろうなという気がしたというのが今回1年間を通しての感想です。

やはり、協力しながらやらないといけない部分というのが結構あるのではないか、特に 入試の場合はあるのではないかなというのを感じたというのがこの1年間の私なりの総括 です。たまたまうまくいった、これは偶然だろうと思いますし、2回目やったら必ずでき るかと言われても、それもほとんど分からないような状況の中で走っていたような気がし ています。もちろん、なるべく受験生には御負担とか御迷惑がかからないようにというの は思っていますけど、あれだったからよかったというのが後世に残せるのかどうかという のは非常に不安を持ってこの1月も対応したいなというふうに思っています。

西郡:

ありがとうございます。

やはり、大学間での連携というところが一つの方法として機能すればいいなというところは思いますけれども、やはり、倉元先生が先ほど御発言されましたみたいに、そこのところは一つまた乗り越えなければいけないハードルがあるんだなというふうに改めて感じるところです。

ほかにこの件に関してはございませんか。

私,石井先生にお聞きしたいんですけれども、様々なパターンで検討されている様子が うかがえるんですけれども、いろいろパターンを検討されて、このパターンに陥ってしま ったらもう完全にお手上げだというような、そういったパターンというのはどういったも のになるんでしょうか。もしよろしければ、解説いただければと思います。

石井:

どのパターンになっても入試はせざるを得ないので、お手上げとは考えていなかったですね。そうなったらそれでやるしかない。ただし、公平性・公正性が確保できるかと言われると、それができるかどうかは怪しいところです。そういう意味ではお手上げパターンというのはあり得ると思いますね。

やっぱり、共通テストも個別試験も両方できなくなってしまったときは、これはもうそういった意味ではお手上げですね。ただ、本当にそうなったときに名大どうするっていうことで対応は考えていました。やるだけのことはやっていたという状況です。

アドミッション部門でいろいろ資料を作成して、学部から何か問合せがあったときには、 はい、これですって出せるような、そんな体制は10月から整えていって、お手上げがお手 上げにならないようにしていました。

西郡:

ありがとうございます。

かなり、やはり、緻密にシミュレーションされて、それでしっかりと対応できるという よう安心したといいましょうか、しっかりとした準備で入試に臨まれているっていうこと がよく分かりました。

今,お話の中で出てきましたけれども、公平性をいかに確保するかというところに少し 注目してみたいんですけれども、やはり、試験の実施環境をいかに公平に保つか、受験生 保護の観点からきめ細かく対応しようとすればするほど倉元先生のお話にもありましたけれども、入試ミスにつながるかもしれない。人的コストがどうしても増えていく。

また、オンライン環境で実施しようとしてもしっかりとした均一な条件をいかに整えるか、どこまで公平性をしっかりと担保することが必要なのかということと、受験生をどこまでしっかりと保護していくのかと、非常に難しい2つの考え方があると思いますが、どのように考えていくべきかということについて、今回の経験を振り返って先生方がいかに考えるのかということを、御意見をお聞きしたいんですけれども、立脇先生はいかがでしょうか。

立脇:

今回のものとちょっと外れるんですけれど、私、入試の中でも特に障害学生の配慮というのを専門にしております。そこでも全く同じ考えなんですけれど、ある基準に達している人を合格にするという形の入試で行っている場合、今回のようなコロナ対応でも問題が仮に違ったとしてもこの基準に達しているから合格する、その代わり、卒業は厳しくするということで多分成り立っていくと思います。

ところが、日本の入試の場合ですと、定員管理であったりとか、さらに、学部・学科単位で細かく入試を行っている、そういうような状況ですと、どうしてもこの中で何人合格にするという形で入試をせざるを得ませんので、公平性の部分が非常に重要になってくるかと思います。

ですので、そこの部分、1個だけ変えるんではなくて、やっぱり、トータルで変えていかない限りはやることは難しいんですが、その中で、こういう事態なのでどこまでだったら従来型のものを変更していいかということを各学部学科で具体的に検討した結果が昨年の入試だと思っております。

西郡:

ありがとうございます。中村先生、いかがでしょうか。

中村:

一応予定通り実施はできましたが、やはり、その裏では万が一実施できないときのため にどういうふうにするかということを検討していく中で、公平性というところがすごく引 っかかっていたところです。

例えば、ほかの大学ではオンラインの面接等を行っていましたけれども、愛媛大学でも面接をオンラインでということは候補に上がりました。結果的に実施しなくて済んだことではあるんですけども、ただ、やはり、オンライン面接等も、先ほど九州大学のお話にもありましたように、いろんなシステムですとか、そういったことも考えて引き続き検討していかないといけないかなという必要性は感じました。

以上です。

西郡:

ありがとうございます。

このテーマ、ちょっと大きいので、倉元先生、これはいかが考えますでしょうか。

倉元:

そうですね、オンラインがリアルの代替になるかっていう観点が1つありますよね。なかなか難しい議論だと思うんですけど、少なくとも先行してオンラインでやらざるを得なかったのは広報のほうなんですね。

結論から言うと、代替できる部分とできない部分と両方あるなっていうことですね。ある程度のところはオンラインでも不可能ではないんだけど、それ以上、もうちょっと細かく全て今望まれているような、例えば、入試本体で言えば、どういった特性を評価するかといったことに関していうと、もし、オンラインでそういうのが同等にできるとするならば、そこに到達するためには相当の研究が必要なんじゃないかなということは思います。不可能とまでは多分言い切れないと思うんですけれども。だから、そういう観点からいくと、やはり、コロナ禍という環境によって、今まで入試で大事にしてきたものが、根本的にあまり深い考えもなく変わってしまうことには、非常に懸念を持っていますというのが1点です。

あともう1つ、ちょっとこれとは違う話なんですけれども、追試験の話が出てきました よね。追試験に関しては、実際、私どもだと個別試験の追試験該当者が1名いたんですよ。 これは、実際にやってみてですね、非常にやりたくなかったなというのが正直なところで す。

それは何かというと、実施のところで大変だというのはあるんですけど、やはり、試験

問題なんですよね。まさしく、これがネック。各地方大学にとっても非常に負担になっているということもあるんですけれども、やはり、御理解いただきたいのは、入試問題というのはいかに労力をかけて最後まで検討されて練り上げられたものかっていうことなんですね。1回実施をしてしまうと公開になるということで、2回、また次に使うということはできないですから。過去問題活用宣言に関して私は大いに問題があると思っています。そういったことを考えると、やはり、どこまで大学として手当てをすべきか、ラインを引くというのはこれからやっぱり必要になってくるのかな?ただ、どこにラインを引くかの判断は、もしかすると今の時点ではそれぞれ違うかもしれないなという気はしています。

もちろん、できるだけコロナにかからず受験生が自分の実力を発揮できる環境での試験、 それを保証したいという気持ちは変わらないんですけれども、実際にどこまで徹底できる か、限界があるなというのは、多分大学関係者だと分かっていただけるかなと思います。

西郡:

ありがとうございました。

新しい手法については入試研究の必要性,そして,追試験については,先生が発言されたことは非常に共感できるところです。

林先生、これについてはいかがでしょうか。

林:

もうそれはおっしゃるとおりだというふうに思っています。1つ情報提供としては、昨年の追試験に関しては、大学というのは定員管理というのが非常に言われるわけなんですが、昨年に関しては定員管理の外にすると、追試験の合格者に関しては定員管理の外にするということを早々とおっしゃってくださっていましたので、そういう意味で、何人来てもどんと受け入れて、つまり、合否を判定して出せるという安心感はありました。昨年に関しては、定員の管理の外にしていただいたということが、すごく安心にはなったかなという気がしています。

もちろん,前段でその試験問題が必要だっていうのは,先ほど,全体の中でも申し上げました。それは,やはり,準備をせざるを得ないということ,我々のところは基本的には英語と理科(物理・化学)と数学という3科目ではありますけど,それの前期と後期,それからほかにも学校推薦,その他でも作っていますし,それ以外に大学院もありますので,

大学入試を作るというのは結構大変なのは事実で、何とかやってきたということになっています。追試験というのは結構準備が大変だというのも事実だとは思っていますけど、やっていかざるを得ないと感じております。

以上です。

西郡:

ありがとうございます。

追試験の準備の必要性であるとか、やれる範囲の中でやっていかなければいけないというところで、それぞれの大学でやっていかなければいけないわけですけれども、最後に先生方にお伺いしたい点があります。今回の座談会の中ではあまり触れられなかったところですが、高校生が学校に行けなくなって学習の遅れとかの配慮をしっかりとやらなければいけないという通知がありました。あとは、2021年度入試ということで新たに主体性評価で調査書を使うとか、調査書の記載に対する評価について配慮を求めるような動きもありました。

そういったところでいろいろとどのように考えて検討されたのかということと、また、 当初予定していた評価ができなくなった場合、立脇先生の話にもありましたけれども、そ の代替措置を取ることによって、アドミッションポリシーをどこまで担保できるのかとい う議論もあったと思われます。

そういったところで何か先生方の大学で、こういった考え方で検討したという点があれば最後にお聞かせいただきたいんですけれども、どなたかいかがでしょうか。

では、中村先生、お願いいたします。

中村:

主体性評価の件なんですけれども、本学は以前から活動報告書というのを先行導入しておりましたが、どちらかというとプロセスを見るということを従来から言っておりましたので、昨年度の通知でもそれほど影響はなく実施ができました。

また、事前に提出する出願書類に活動報告書が含まれている場合には、当日の面接等が 万が一できなかった場合でもそういった提出物から評価する可能性も考えられるかなとは 考えておりました。以上です。

西郡:

ありがとうございます。

主体性等評価については、そのプロセスを見ることによってしっかりと評価していった という考え方でしたけれども、そのほか、いかがでしょうか。

林先生、お願いいたします。

林:

今回COVID-19の話もありましたけど、もう一つ、西郡先生がおっしゃられたように、 大学入試改革の年でもあったわけで、特に主体性、協働性に関しての評価というのは各大 学で苦慮されただろうというふうに思っています。それは我々本学もそうでありました。

本学は、これでお許しいただけるかどうかというのはひょっとすると異論があるのかも しれませんが、全部の選抜単位でエントリーカードなるものを導入しました。つまり、何 で本学で学びたいのかということを書くということで、多くの場合は、その学校推薦型だ とか総合型というので課している大学が多いのではないかと思いますが、全ての選抜単位 においてエントリーカードというものを用意して、それを記入するということをお願いを し、それを主体性、協働性というものの評価の対象にする、ということにしています。

その辺は本学の募集要項の中にも表になって表れていますので、もし、御興味があれば 御覧いただければと思っています。

以上です。

西郡:

ありがとうございます。

エントリーカードというものを使って見ていったというお話でしたけど、倉元先生、お願いいたします。

倉元:

それでは、ちょっと東北大学の話もさせていただこうと思います。

私どものほうでは5項目のチェックリストということで、一般選抜においては受験生の 自己申告で主体性を表すものを選抜資料としていただいております。 これ、初年度実施をして、その結果、――分析したのは一部だけなんですけれども―― 自己申告とはいってもある種の妥当性があるということが確認できました。分析して、も う結果が出ています。ある雑誌に投稿していて、そこで掲載が許可されれば一般の目に触 れるというところかと思います。

ですので、チェックリスト形式です。一般選抜に関してはコロナの影響はなかったというふうに思っています。

あと、私ども、AO入試と呼んでいます総合型選抜のほうでは、志願理由書、活動報告書、これも実施区分によりますけれども、提出を求めておりますので、そこの中で従前から見てきたというものです。これも、さほど重きを置いていませんので影響は受けなかったということで、もしかすると参考にはならないかもしれません。

西郡:

ありがとうございます。立脇先生, いかがですか。

立脇:

検討自体に関しては比較的、もともとやっていたものから高校時代の成績等軽くするという形で対応いたしました。ただ、今回最悪の事態にならなくてよかったなと思ったんですけど、もともとの文科省が出した話では、高校時代の成績は遅れが生じているのでミニマムにするという話でした。

ところが、仮に共通テストや個別試験が実施できなかったら、むしろ高校時代の成績に 依拠して入試をせざるを得なかったわけです。ですので、今考えると、共通テストや個別 試験が実施できなかったら、唯一使える高校時代の成績も使いにくく、何も使える武器が ない状態で闘わざるを得ない状況だったなということで、ぞっとする思いです。

以上です。

西郡:

ありがとうございました。

もう時間も迫ってきましたので最後まとめたいと思いますけれども,2022年度入試に むけて準備を各大学始めていると思います。一方で、オミクロン株等の拡大ということも 考えられる中で、これまでの各大学で試行錯誤でやられてきたことの経験値が今度の入試 にもぜひ生かしていければと思います。

私自身は、できればこういった情報交換というのはほかの大学にも、できるところはうまく連携しながらやっていくと、共通知として今後こうした危機状況に陥ったときにうまく切り抜けていけるのではないかなと感じたところです。

以上、総括ということにつきましてはここで終わらせていただきたいと思います。 それでは、寺尾先生に司会を交代いたします。

寺尾:

西郡先生, どうもありがとうございました。

先生方、本日は大変貴重なお話をどうもありがとうございました。

緊急事態での入試をどういうふうに考えるかということ、大きなテーマだったかと思いますけれども、いずれも重要な論点を提示していただいたと思います。

ここで座談会本体は終了となります。この後、15時10分から、10分ほど休憩を挟みまして15時10分から情報交流の時間を設けさせていただきたいと思います。この機会を積極的に御活用ください。

情報交流会にもご参加ください!

- ・このZoomウェビナーは、まもなく終了します。
- ・情報交流会は、別のミーティングルームへ移動します。
 - ・チャットに情報交流会のミーティングURLを掲載しておりますので、こちらから接続してください。
 - また、事前に参加者の皆様にお送りしたメールでのご案内 (プレイバック座談会視聴のご案内)にも、情報交流会に 接続するための情報が記載されています。
 - ・ウェビナーを退出すると、アンケートにリダイレクトします。 ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

私から2点御案内がございます。

1点目は情報交流なんですけれども、情報交流はこのウェビナーではなくて別のミーテ

ィングルームへ移動する形で行います。情報交流にも参加を希望される視聴者の皆様はチャットに今事務局のほうからミーティング情報を流していただいていますので、そちらからクリックしていただいて飛んでいただくのが一番簡便かと思います。そちらからミーティングルームへの御移動をお願いいたします。

なお、ミーティングルームの情報は先日配信させていただきましたメールにも記載がご ざいますので、併せて御活用ください。

2点目は、アンケートのお願いです。このウェビナーを退出されますとアンケートに自動的に遷移いたします。ぜひ、御協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、座談会のほうは一旦閉じさせていただいて、15時10分から情報交流セッションを始めたいと思います。視聴者の皆様、どうもありがとうございました。引き続き御参加ください。



シンポジウムのアンケート結果と実施運営のバックヤード

東北大学·高度教養教育·学生支援機構 宮本友弘 東北大学·高度教養教育·学生支援機構 久保沙織 東北大学·高度教養教育·学生支援機構 南 紅玉

- 1. 参加申込みに関わる事項
- 1.1 参加申込期間: 2021年10月28日(木)~12月10日(金)

備考:12月15日(水)まで追加申込に対応

- 1.2 参加申込者数: 計 199 名(登壇者を除く)
- 1.3 参加者内訳 (1) 大学教職員:97 名
 - (2) 高等学校・中等教育学校教員:50名
 - (3) 受験産業:13名
 - (4) 教育行政関係者(文部科学省,教育委員会等):8名
 - (5) マスコミ関係者:4名
 - (6) その他:27名
- 1.4 当日の参加者: 110~130名(時間によって変動あり)
- 2. シンポジウムの事後アンケートの結果
 - ・質問項目: (1) 御所属
 - (2) 座談会の内容は如何でしたか
 - (3)(2)のように考える理由について具体的にお書きください
 - (4) 座談会の時間は如何でしたか
 - (5) 情報交流会は如何でしたか
 - (6)(5)のように考える理由について具体的にお書きください
 - (7) その他、全般的な御意見、御感想をお寄せください
 - ・回答者数: 73 名
- 2.1 所属について 大学:41名

高等学校・中等教育学校:15名

教育行政機関:6名

大学入試センター:2名

受験産業:2名

校長協会事務局:1名

大学院生:1名 マスコミ:1名

出版社:1名

不詳:3名

2.2 座談会の内容 よかった:71名

どちらとも言えない:2名

2.3 座談会について

大学:入試業務の具体的な話を聞くことができた。

大学:様々な対応が具体的に知ることができた。

大学:他大学で、どのようなことを検討し、取り組まれたかが分かり、今後の参考となった。

大学:学部入試の実務的な部分について知ることができたから。

大学:様々な対応事例の情報共有は非常に重要。

大学:具体的な入試に関するご苦労話などが参考になりました。

大学:他大学の具体的な対応等を知ることができたこと。

大学:詳細な情報を提供していただいた。

大学:あらためて、令和3年度入学者選抜を振り返ることができたから。

大学:各大学の実際の対応について,示唆に富んだ意見や感想を知ることができました。

大学: 当時の各大学の様子がうかがえたので。

大学: 生の声で本音で聴けたと思うので。

大学:個々の大学の実際の対応を生々しく聴けて良かったです。

大学:興味のあるポイントを中心に大変スムーズな進行で、参考(安心)になりました。

大学:各大学の先生方がどういう視点で検討を行っていたのかが分かり,有意義でした。

大学:短い時間にコンパクトに必要な事項が盛り込まれ、十分に練られた構成になって いたことに感心した。

大学:講演者の大学における具体的なコロナ対策が公開されたこと。

大学:各大学で実施されたこと,ご経験されたこと,課題となったことを,具体的におはなしいただけたことが大変興味深くもあり,参考になった。

大学:コロナ禍での入試実施において、他大学の苦労が共有できたため。

大学:他大学のリスク対応についての貴重なお話を伺えました。ありがとうございます。

大学:昨年度の入試の緊張感を思い出しつつも,自大学で取れる対応について改めて考える良い機会となった。ただ,国立大の事例のみで教員の立場からの発言のみであり,私大の事例や現場を取り仕切った職員からの事例もあればなお良かったと感じる。

大学:各大学の具体的な事例について知れたから。

大学:他大学のリアルな情報はなかなか得られないので、貴重なお話を伺えたと思いま す。同じような悩みを抱えながら実施してきたことが分かりました。

大学:コロナ禍での困難な入試の実態が具体を以て語られていたから。

高等学校・中等教育学校: 当時の舞台裏を垣間見れた。

高等学校・中等教育学校:各大学のコロナ禍におけるリアルな苦悩と受験生に真摯に向 き合う様子を知ることができて良かった。

- 高等学校・中等教育学校:今回のようなことは頻繁に起こっては困るが,実際に起こってしまった場合の対応として共有してことは重要。過ぎ去ったからといって忘れていいものではないと思う。
- 高等学校・中等教育学校:かなり具体的な実態が聴けて、改めて綱渡りのような日々だったことがわかった。
- 高等学校・中等教育学校:高校側の人間として,受け手である大学側が当時検討していた,行われていたことがわかったことは有意義でした。
- 高等学校・中等教育学校:コロナ禍における入試に関する各大学の試行錯誤の過程を具体的に(生々しく)知ることができたため。
- 高等学校・中等教育学校:見通しの立たない難しい状況で、受験生が力を発揮できるよう最大限のご配慮を頂いたことが感じられました。コロナ禍において、入試制度そのものが抱える課題も一般的に顕在化したと感じられるので、ここから更に議論がなされていくことと期待します。
- 高等学校・中等教育学校:コロナ対応について、大学側の非常に生々しい状況をお聞き することができた。平等性を担保するため、また、様々な状況に対応するため、緻 密に事前準備をなさっていることがわかり、高校側としたはたいへんありがたく 感じるとともに、信頼感を高めることができた。
- 高等学校・中等教育学校:大学のご苦労が垣間見えた。本校は東北地方の田舎の学校で、関東方面への受験も少なかったため、オンライン受験がなかった。実際にオンライン受験を、大学-生徒個人間でなく、大学-高校間で行うことを想像すると、機器も古く、冷や汗がでる。
- 高等学校・中等教育学校:入試関係者が一部かも知れませんが一緒になって乗り越えた ことが実感できたこと。
- 高等学校・中等教育学校:入試の実施に関して、高校とは規模の違う大学入試で、どのように安心安全を確保し、公平性を担保しようとしているのか、大学側の丁寧な対応を知ることができた。
- 教育行政機関:大学入試背景について、様々な観点で話が聞けたから。
- 教育行政機関:人事異動で 4 月から担当となったため昨年度の取組状況を知ることができた。
- 教育行政機関:最新の情報を知ることができました。
- 教育行政機関:時期を区切って振り返ったことで,成果と課題をうまく浮き彫りにでき たから。
- 教育行政機関:規模も地域もバリエーションのある各大学の昨年の入試事情が,時期を 分けてコンパクトにまとめられていて,得られるものが非常に大きかったと思い ました。
- 大学入試センター: わかりやすい資料の作成と適切なタイムマネジメント, 見事なスタッフ間の連携に敬服しました。 論点も手際よく整理されていましたので, 事前のご

準備に大変なエネルギーをかけられたことがよくわかります。ただ、それが逆に作用して、120分に収めるためにテンポが少し速すぎて、内容を理解していくのに苦労したオーディエンスも結構いたのではないかと危惧します。一種の番組制作のイメージで、もし可能であれば、各発言の位置づけがわかるように、背景に現在位置のマップあるいは大学間比較表などを ppt で同時表示しておくなどできればよかったのかなと思いました。

校長協会事務局:具体的な事情を知ることができた。

受験産業:個別試験の追試験対応。それぞれの大学の本音が興味深かったです。22 入試でも国立大は追試験を実施するところがほとんどですが、内容が変わった大学もあり、理由がわかった気がします。

大学院生:コロナ禍での入選業務の実態が分かった。

出版社:危機管理のリアルな話が伺えたため。

不詳:座談会と情報交流を分けなくても良かったのではないかと思います。分けないほうが、内容と連動した質問が出やすかったのではないでしょうか。

不詳:情報を聞くことができた。

不詳:緊急事態宣言下における各大学の入試に対する真摯な応対を伺うことができました。

2.4 情報交流会の内容 よかった:19名

どちらとも言えない:5名

参加しなかった:42名

無回答:7名

2.5 情報交流会について

大学:より具体的な議論を聞くことができ参考になりました。

大学: 貴重なご意見を伺えたことを嬉しく思います。次年度より大学院に進学するので、 その点でも参考になりました。

大学:混迷期にこの規模で情報交換をしたかった。

大学:座談会では設けられなかった質疑応答の時間があったから。

高等学校・中等教育学校:もう少し柔らかい雰囲気で進行されるのかと(勝手に)思っていましたが、充実した時間でした。

高等学校・中等教育学校:監督割り当ての件が話題に上っていたが、個人的に、私自身も気になったところである。名古屋工業大学の林先生のお話にもあったように、本来、運営側として本部に控えているような方も監督に当たらねばならない状況になったことは、大変驚くとともに、可能性としては十分にあり得ることでもある。本年度は例えば、外部の人材などの活用も想定しているのか、その場合、何かミスがあった場合の責任はどのようになるのか等について、疑問を持った。

高等学校・中等教育学校:参加の仕方がわかりませんでした。

高等学校・中等教育学校:情報交流は、部活動指導の事情で参加できず申し訳ございま

せん。

- 高等学校・中等教育学校:色々な立場の方がおり、答えづらそうでしたので質問を控えました。その他の質問をしたかったのです。
- 高等学校・中等教育学校:入試関係者が一部かも知れませんが一緒になって乗り越えた ことが実感できたこと。
- 教育行政機関:学の入試関係者に限らず、高校の参加者も多かったと思いますので、大学側の諸事情を知る貴重な機会だったのではないかと思います。そのため、高校側の参加者の質問もあるともっと良かっただろうと思いました。
- 出版社:来る 2022 年度試験の見通しについて話題が及んでいたため。
- 不詳:むしろ,今後の入試のあり様を考えるきっかけとなればよいと思いながら聞いて いました。

2.6 全般的な意見・感想

- 大学:各大学の皆様がどのような状況であり、何か課題となったのかを知ることができました。また、コロナ禍を含め、社会環境が大きく変わっていく中で、大学間の情報交換の重要性を感じました。今後もこのような場をご提供いただけることを期待いたします。本日得た情報を今後の業務に反映していきたいと思います。
- 大学:たいへん興味深い座談会をご企画いただきありがとうございました。今後ともご 実施いただけますようお願いいたします。
- 大学: なかなか公開されていない情報を得られたので大変有意義な時間でした。ありが とうございました。
- 大学:ここ数年,このセミナーに期待して参加しております。今後ともよろしくお願い します。
- 大学:このような形で、振り返りを行っていただき大変参考になりました。ありがとう ございました。
- 大学:この度は参加させていただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。
- 大学:貴重な情報をご提供いただきありがとうございました。
- 大学:今回の緊急対応の経験が、平時に戻る際にどう活かされるかを知る、議論する会があるとありがたい。
- 大学: 差し迫った令和4年度大学入学共通テストが、無事に実施されることを強く祈っています。
- 大学:時宜を得たテーマに関して,限られた時間内に,テンポよく,また,流れも自然な形で,具体的な事例紹介が盛り込まれていたことに感心した。スタッフの準備も日常的に積み重ねられたのであろうと想像に難くない。これから,大学教育,大学入試に関わる,重要なテーマだけに,この種のネットワークが更に発展していくことを祈りたい。
- 大学:新たなことを行おうと検討するとき、本学では問題とならなかったが他大学で問

題となった事例を知ることは、今後のリスク回避にも役立つと思いますので、大変 参考になりました。例えば特任教員が増えると試験監督者のなり手がいないです とか、女性教員と保育園の問題ですとか、大変参考となりました。ありがとうござ いました。

大学:西郡先生の話を伺って,全国の相談ネットワークのようなものがあれば,地方の 小規模の大学にとってはありがたいだろうと思いました。

大学:全国の大学でなるべく共通して対策するのがよい。

大学:他大学の状況,取り組み方,入試実施における多様な課題等様々な観点でのお話 を伺うことができ、大変参考になりました。このような機会を提供いただき、あり がとうございました。

大学:大変参考になりました。ありがとうございました。

大学:東北大学さんを中心とする大学入試研究の取組は常々興味深く視聴させていただいております。今後とも宜しくお願い致します。

大学:様々な変化があるなか、今後も定期的にこのような機会があるとありがたい。

高等学校・中等教育学校:2年目となる令和4年度入試についても,3年度入試との比較で聞いてみたいと思います。

高等学校・中等教育学校: 3.座談会の時間 長すぎはしないけれど, ちょうど良いと言う には少し長かったです。

- 高等学校・中等教育学校:センター試験から大学入学共通テストになるに当たって、記述式など様々な動きがある中で入試本番を迎えました。これまでの通知文書やH P等では旧文言等を使用したものを目の当たりにする中、高校現場でも緊張が高まり続けました。「多くの現場で混乱しているようだ」と感じました。この中でご尽力いただいた方々に心の底から感謝申し上げます。
- 高等学校・中等教育学校:高校側からの質問ですが、本校では昨年、オンライン面接等を受けた生徒がいなかったのでわかりませんが、オンライン受験のガイドラインのようなものが文科等から出されていて、原則大学ごとの違いがないようになっているのでしょうか?大学ごとに方法を決めた場合、例えば高校が試験室や機器を提供するように求められると、高校側としては場所はあるとしても、最新機器がなく、オンラインミーティングでもしばしば音飛びをしてしまう環境しか提供できない事態に陥るのです。生徒の将来がかかる受験において、高校の責任が問われる事態にも発展しそうで恐ろしいのですが、大学としては、大学-生徒間の受験であり、高校を介在させることは考えていませんよね。
- 高等学校・中等教育学校:今回はこのようなウェビナーを実施していただきありがとう ございました。高校教員の視点では、昨年度は入試に向けた生徒たちの努力を発揮 する場があるのかというのが一番の不安材料でした。今回の座談会を通して、各大 学が受験生のために最大限の努力を講じられている様子を知ることができ、受験 生を指導している立場からすると、ある種の安心感と信頼感を得ることができま

した。

- 高等学校・中等教育学校:倉元先生の一貫した理念に感銘を受けました。
- 高等学校・中等教育学校:大学側のコロナ対応について具体的な対応策について理解を 深めることができた。高校教員の側としては、なかなかこうした事情について知る 機会が少ないため、大変参考になった。このような機会を作ってくださった東北大 学にはあらためて感謝申し上げるとともに、大学の情報を公開していただく貴重 な機会となったという点で、信頼を大いに高めることができた。
- 高等学校・中等教育学校:東北大の高校緊急調査のように高校サイドの意見を吸い上げ ながらの取り組みは重要だと思いました。
- 教育行政機関:具体的な感想は上の自由記述 2 点で尽きております。素晴らしい会で、 参加して良かったです。
- 教育行政機関:進行もスムーズで機器トラブルもありませんでした。ありがとうござい ました。
- 大学入試センター: 今回は特別な入試になったための企画だったと思いますが、個別大学を越えてその年度の入試を振り返る機会があるのはとても有意義ではないかと思いました。すでに国立大学アドミッションセンター連絡会議やアドミッション専門職協会等ではそういう機会があるのかもしれないですが、今回参加させていただいて、高大接続に関わる人たちが広く参加できると、各大学のご苦労や課題点などが共有できて意見交換もできるので、とても意義の大きなものになります。ぜひ今後、ご検討方宜しくお願いします。今回は本当に有難うございました。大変お疲れ様でした。

大学院生:試験実施の困難さが、実感できました。ありがとうございました。

- 受験産業:受験生の機会を確保するためにできることをしていけるよう,入試に関わる 大人が環境を整備していくべきだと思います。当方,高等学校ではありませんが, 受験生を抱えている立場に変わりはありませんので,こういったお話を聞けるこ とは参考になります。今年も無事に入試が終えられるよう受験生たちをサポート していきます。
- 出版社:資料には時系列の情報がわかりやすくまとめられており、大変参考になりました。
- 不詳:やはり、入試問題のフレーム・ワークを作成し、事後として解答例も併せて公表 する必要があると考えます。そうすることで大学からも「アドミッション」を発信 することになるし、受験生もどのような学力が求められているのか理解できると 考えます。

不詳:また、参加したい。

- 3. 実施運営のバックヤード
- 3.1 シンポジウム会場のレイアウトとオンライン接続形態の検討過程
- 3.1.1 当初案(Ver.1)
 - (1) シンポジウム本編のレイアウト案 [スピーカー・マイク利用を前提] (図 1)

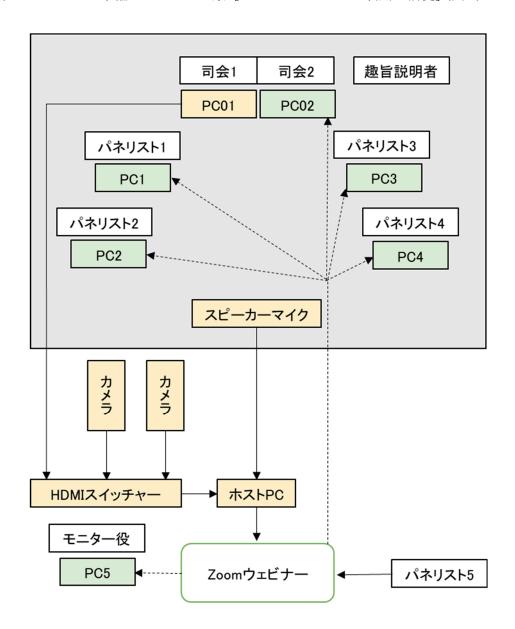


図1 シンポジウム本編のレイアウト・接続形態の案 Ver.1.0

(2) 情報交流会のレイアウト案[Zoom ブレークアウト・ルーム利用を前提] (図 2)

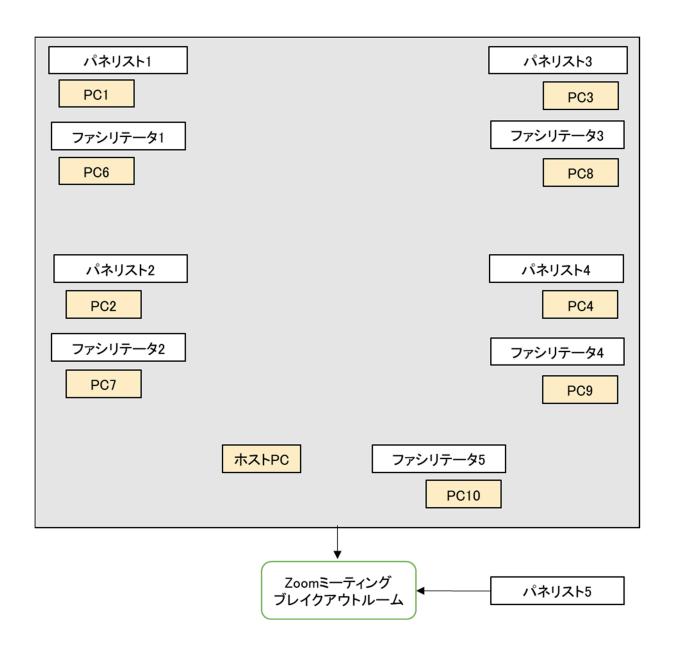


図 2 情報交流会のレイアウト・接続形態の案 Ver.1.0

- 3.1.2 修正検討案(2022年11月26日案 Ver.2)
 - (1) シンポジウム本編のレイアウト修正案 [個別マイク・ミキサー利用に変更] (図3)

趣旨説明•座談会

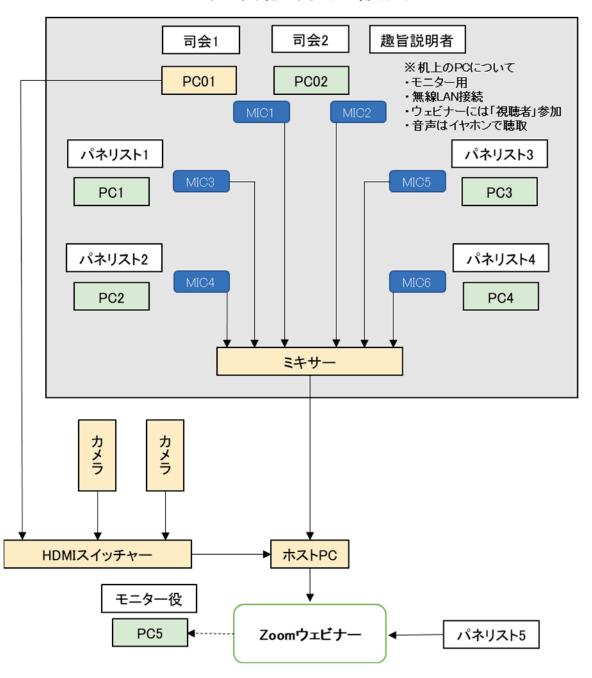


図3 シンポジウム本編のレイアウト・接続形態の修正案 Ver.2.0

(2) 情報交流会のレイアウト修正案 a [Zoom ミーティングに変更・一括接続] (図 4)

情報交流(プランA)

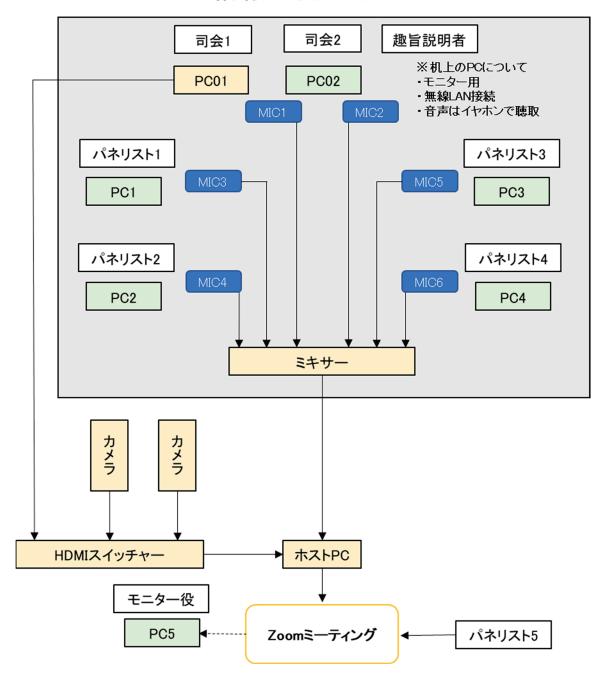


図 4 情報交流会のレイアウト・接続形態修の正案 Ver.2.0a

(3) 情報交流会のレイアウト修正案 b [Zoom ミーティングに変更・個別 PC 接続] (図 5)

情報交流(プランB)

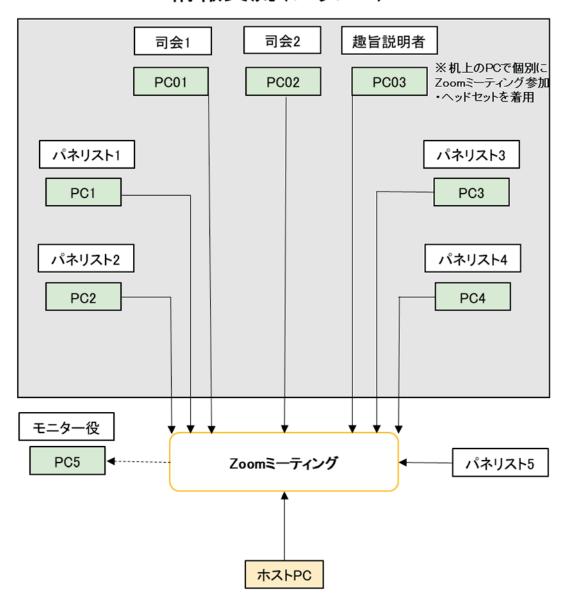


図 5 情報交流会のレイアウト・接続形態の修正案 Ver.2.0b

- 3.2 シンポジウム会場の下見とレイアウト・接続形態の確定
 - 3.2.1 会場について(2021年12月6日に事前の現場確認を実施)
 - ・アルカディア市ヶ谷 7F 白根
 - ・ネット環境については、有線の接続口があり、持ち込みの HUB を使用できる。
 - ・また、電源やWi-Fiは自由に使える。
 - 3.2.2 趣旨説明・座談会の設定
 - (1) 来場参加者のレイアウト
 - ・「日曜討論」のような感じで座席を配置する。
 - ・最終的なレイアウトは、下見(12月6日)と新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて確定する。
 - ・趣旨説明・座談会の本編の設定は「Ver.2.0」を採用
 - ・情報交流の設定は「プラン A: Ver.2.0a」を採用
 - (2) Zoom ウェビナーへの入室
 - 1) 来場の司会・パネリスト
 - ①映像 上記(1)を複数のカメラで収録し、HDMI スイッチャーに集約・選択して、ホスト PC の「ビデオ」として入室。司会の PC 画面も、同様。
 - ②音声 司会,各パネリスト用のマイクを用意し、ミキサーに集約して、ホスト PC の「オーディオ」として入室。
 - 2) オンラインのパネリスト
 - ・PC で Zoom ウェビナーに「パネリスト」として入室。
 - (3) モニタリング
 - ・各自の PC で、ウェビナーに「視聴者」として入室する。
 - ・音声は、イヤホンで聴取する。
 - 3.2.3 情報交流の設定
 - ・基本的な設定は、座談会のまま。
 - ・各自の PC で、新たに立ち上がった Zoom ミーティングに入室するだけ。
 - 3.2.4 当日持参していただきたいもの
 - PC
 - ・モバイル Wi-Fi (念のため)
 - ・PC に接続可能なヘッドセット(念のため)
 - 3.2.5 Zoom の設定
 - (1) 座談会 (Zoom ウェビナー) ※視聴者用
 - (2) 情報交流 (Zoom ミーティング)
 - (3) オンライン参加のパネリスト
 - ・個別に連絡
 - 3.2.6 新型コロナウイルス感染症の対策 **※**12 月 6 日の下見を踏まえて確定する。
 - ・アクリル板の手配

- ・マスクの着用
- ・消毒
- ・検温
- 3.2.7 下見をふまえた配置レイアウト[電源確保を追加](図 6, 図 7)
- (1) アルカディア市ヶ谷より提示された配置図 (図 6), 当日, 修正して対応

2021 年 12 月 19 日(日) 東北大学入試センター 様 プレイバック座談会 イメージレイアウト

自根

図6アルカディア市ヶ谷側から提示されたイメージレイアウト

(2) アルカディア市ヶ谷の下見をふまえた最終的な配置イメージ[電源留意版](図7)

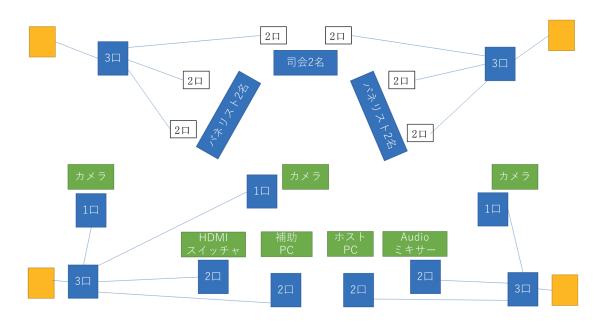


図7 シンポジウム本編・情報交流会の全体配置イメージレイアウト

3.3 シンポジウム当日の現場の配置と接続形態

(1) 会場全体の配置図 (図8)



図8 シンポジウム本編・情報交流会の全体配置

(2) 運営本部のバックヤード (図9)



図9 Zoom ホスト PC 管理・映像切替・音響担当の実施運営の現場

(3) シンポジウムのフロントライン(図 10)



図 10 コロナ感染対策のアクリル板で区分した配置のフロントライン

プレイバック座談会 進行表

2021/12/13 版

- ※ この進行表は、質問内容・トークいただく内容の大まかな流れを示したものである。 当日は、この流れを基本としつつ、小さな質問・トークを間に挟むことがある。
- ※ 時間が不足すれば、その期の後ろにあるトークテーマをスキップすることもある。時間が余れば、リストの中からトークテーマを選ぶこともある。

目安時刻	概要	話者	所要時間		
D X H) X)	IM S	(敬称略)	(目安)	HT WH	
13:00	冒頭の挨拶	寺尾	50 秒	口 視聴者の皆様, こんにちは。定刻となりましたの	
				で、「プレイバック座談会 大学入試におけるコロ	
				ナ対策 令和 3 年度入試の舞台裏」を始めたいと	
				思います。前半の司会を務めさせていただきます,	
				大学入試センター研究開発部の寺尾です。よろし	
				くお願いいたします。	
				口 本日は,この座談会をご視聴いただき,どうもあり	
				がとうございます。ぜひ,コロナ禍で苦悩した令和	
				3年度入試のリアルを、皆様と一緒に共有したいと	
				思います。	
				口 はじめに,大学入試センター研究開発部の内田よ	
				り, 本座談会の趣旨説明をさせていただきます。内	
				田先生よろしくお願いします。	
13:01	趣旨説明	内田	5 分程度	本座談会の目的や趣旨,緊急オンラインフォーラムの	
				開催背景や経緯などについて紹介する。	
13:06	全体説明	寺尾	5 分程度	口 内田先生, どうもありがとうございました。	
			(7:21)	口 趣旨説明にもありました「緊急オンラインフォー	
				ラム」 につきまして, 文部科学省の施策や当センタ	
				-の試験実施方針に影響をもつものではなかった	
				点,あらかじめご承知おきください。	
	プレイバッ		(1分)	ロ プレイバック座談会の中身に入る前に、視聴いた	
	ク座談会の			だくにあたっての確認事項について,説明させて	
	視聴者の皆			いただきます。	
	様へ			口 1つ目は、座談会の進め方についてです。この座談	
				会は,登壇者との質疑応答を中心に進めてまいり	

ます。個別のご発表の時間はござい 理解のほどどうぞよろしくお願いい □ 2 つ目は、視聴者の皆ないらいで、もし登壇 で変けいたしますので、もし登壇 さればと思います。 □ なお、この座談会は、一部の登壇 に集まってを談す点、一部の登壇 に集まってを談す点、右がりますが クリル板を設す点、お知りますが クリル板を設す点、お知りますが クリル板を設す点、お知りますが クリル板を設す点、お知りますが クリル板を設す点、お知りる前に、 サさイルスと令和 3 年度人思いま □ 2020 年1月に日本国内で新型の 楽者が確認されて以降、3月の一美 急事態宣言と続き、令和 3 年度入 的なものになりました。緊急所来 はいた。緊急所来 はいた。 写真」が、当センタール・選手 を万全にした上での早境を まなポイントなどを記載した「入 砂となっています。 □ 7月末から「GoToトラベル」が始 を万全にした上での県境をまたで ました。 9月から 11月にかけてれま は合型・学校推薦型選抜が行われま 県境をまたでいまで なが会力と学校推薦型選抜が行われま 県境をまたでは 総合型・学校推薦型選抜が行われま 県境をまたいまを これが発 を万全にした上での県境をすたで ました。 2月から 11月にかけてれま まながまながら特色 なが出することができたのは ながまながら特色 なが出することができたのは ながまながら特色 ないよりなることができたのは ないまながまながら特色 ないよりなることができたのは ないまながまながら特色 ないまながまながら特色 ないまながまながまながら特色 ないまながまながまながら特色 ないまながまながまながら特色 ないまながまながまながまながら特色 ないまながまながまながまながまながまながまながまながまながまながまながまながまながま	い質流先きで、者がでしま体。ナ体試言き入ス1週設は者、ま移、すった問の生留質、司話感まず像、ウ校の言き学ト日間定、選、り動国がンるしに時方め問、会者染すはに、イ、混解し選をできる大要、感認大受ス抜すいにのいた、が間策、型い、ス月は除た抜悪第にこ学項、染め学験に試っておごただ、会にを、コて、のの決後。実要2実との」、対らで生集験で受質だけ、場ア徹、口、、感緊定、、施リ日施が選の、策れはが合をで受質だけ、場ア徹、口、、感緊定、、施リ日施が選の、策れはが合を

目安時刻	概要	話者(敬称略)	所要時間 (目安)	詳細
				密なご検討があってのことです。
				ロ 11月から12月にかけては、共通テスト・個別学力
				検査でのコロナ対策に関するガイドラインが公表
				されました。一般的な感染対策に加えて,体調不良
				者への対応など,関係者には例年以上の緊張感が
				走りました。コロナ禍での試験を目前にした戸惑
				い・不安も,お伺いしてみたいと思います。
				口 1月から3月には、共通テスト・個別学力検査の本
				番を迎えました。コロナ禍での各大学での試験実
				施のリアルをお伺いするにつけ,壮絶なご苦労が
				あったようです。後ほど,実感を交えたお話をお伺
				いしたいと思います。
	Press		(30 秒)	口 この座談会では、コロナ禍での入試のリアルを追
	ENTER			体験していただくため,2020年の4月から6月を
				第1期,7月から9月を第2期,10月から12月
				を第3期,1月から3月を第4期として,時系列
				に沿ってお話を伺いたいと思います。その後,西郡
				先生に司会をバトンタッチし、コロナ禍の令和3年
				度入試を総括したいと思います。
	新規陽性者		(30 秒)	口 ここで, 改めて 2020 年度中の新規陽性者数の推移
	数の推移			を確認しておきたいと思います。
	(全国)			ロ 共通テスト・個別学力検査は、第3波の真っ只中で
				行われることになりました。本番での感染状況の
				深刻さは,第 1 期にはもちろん予想できませんで
				した。先行き不透明な中で各大学の選抜要項公表
				を行うことになった点は、第 1 期の重要な視点だ
				と思われます。また、総合型・学校推薦型選抜の時
				期に、徐々に陽性者数が増えていたこともわかり
				ます。
	新規陽性者		(30 秒)	ロ 続いて,先生方の大学がある都道府県ごとに,新規
	数の推移			陽性者数を見てみたいと思います。
	(都道府県別)			ロ 名古屋大学・名古屋工業大学のある愛知県,九州大
				学のある福岡県では、先ほど見た全国的な推移と
				ほぼ連動した動きをしています。これに対し,東北
				大学のある宮城県、愛媛大学のある愛媛県では、第

目安時刻	概要	話者(敬称略)	所要時間 (目安)	詳細
				1波は比較的小さく,第3波は相対的に深刻だった
				こともうかがえます。
	第1期		(5秒)	口 さて,第1期に入ります。
	陽性者数		(20秒)	口 各期のはじめに,人口 10 万人当たりの新規陽性者
	(6/23)			数を日本地図でお示しします。日付は,オンライン
				フォーラムの開催日を記載しております。
	大学入試に		(15 秒)	ロ 感染状況が深刻になるほど、赤色の度合いが増す
	深く関わる			形ですが、6月末は感染状況がいったん落ち着いて
	当時のトピ			いた時期だったことがわかります。
	ック			□ 1回目の緊急事態宣言の発出後,大学入試の根幹に
				関わるホットトピックがいくつかありました。例
				えば秋入学の議論は,選抜日程の組み方に直接の
				影響を与えるものであり,かなり大きな懸案事項
				でした。
				□ また、県境をまたぐ移動の制限は、県外からの受験
				生にどのように試験を受けてもらったらよいか,
				入試広報をどう工夫するかといった点で,色濃く
				影響を及ぼしました。
				口 さらに,受験機会の保障という観点から,追試験の
				設定についても論点になりました。
	オンライン			ロ 第 1 回の緊急オンラインフォーラムでは,不確実
	フォーラム			な中で苦悩されている先生方に,各大学の検討状
	で議論され			況や懸念事項についてのお話をお伺いしました。
	たこと			例えば、共通テストの成績提供日程や、選抜区分ご
				との追試験の可否,選抜方法に変更が生じた場合
				の周知方法などが挙げられます。
				□ さて,いよいよ先生方のお話をお伺いしたいと思
				います。
13:11	第1期	寺尾	(30 秒)	ロ まずトップバッターとして、九州大学の立脇先生
	トーク			にお話をお伺いしたいと思います。1 回目の緊急
				事態宣言では、県境をまたぐ移動自粛が強く求め
				られました。各大学でも、感染状況ごとの行動指
				針が定められたかと思います。選抜の日程や実
				施・運営の方法の方針を検討する際、移動自粛や
	<u> </u>	l		行動指針はどういった影響があったのか,九州大

		話者	所要時間	
目安時刻	概要	(敬称略)	(目安)	詳細
				学の事例を交えて,立脇先生,お話いただけます
				でしょうか。
13:12		立脇	3 分程度	● 九大での行動指針と,それにあわせた入学者選抜
				での対応の方針【資料差し込み】
				● 九州大学での全体方針の決定のお話もあわせてお
				伺いする。
				● 総括の「国立大学全体で考えること/個別の大学
				で判断すること」の議論につながる話。
13:15		寺尾	1分	ロ ありがとうございます。
				ロ 次に、個別学力検査の実施に関する大学の温度感
				の違いについて,東北大学の倉元先生と,名古屋
				工業大学の林先生にお話をお伺いします。
				口 入試本番にあたる1月から3月は気温や湿度が低
				いことから,感染爆発するのではないかという予
				想もちらほらありました。こうした中で,一般社
				会で移動制限がかかった場合であっても,各大学
				の個別選抜は絶対に実施すべきと考える大学と,
				受験生の感染リスクを低減させるため個別選抜
				の実施に慎重な大学が、はっきりと分かれたよう
				に思いました。まず,災害時の個別学力検査の実
				施について,過去の事例とあわせて,倉元先生,
				いかがでしょうか。
13:16		倉元	1分半	● 一般選抜に関する考え方についてご紹介いただ
			程度	ζ.
				● 新型インフルエンザ,東日本大震災の時の話も含
				めていただく。
				● 早々に個別学力検査の中止を発表した横浜国立大
40.40		<u> </u>	00.41	学などと対比しながら。
13:18		寺尾	30 秒	□ ありがとうございます。新型インフルエンザや東
				日本大震災のときの事例についても、改めて振り
				返る必要がありそうだなと思いました。
				ロ 名工大の林先生も、緊急オンラインフォーラム当
				時,個別学力検査の実施は必須というお考えだっ
				たように記憶しています。学内でも個別学力検査
[L]		を中止するという考え方は全くなかったのか,大

学ごとの温度感の違いについては、どうして 理をされているか、林先生、教えていたで でしょうか。 林 1分程度 ◆ 名工大が、例年通りの入試日程(試験日)を 調整していた点について、ご紹介いただく	だけない
でしょうか。 13:19 林 1 分程度 ● 名工大が、例年通りの入試日程(試験日) **	
13:19	 シ基軸に
	を基軸に
調整していた点について、ご紹介いただく	<u>-</u> - СТПМ
	0
● 早々に個別学力検査の中止を発表した横沿	兵国立大
学などと対比しながら。	
13:20 寺尾 (30 秒) 口 ありがとうございます。	
ロ次に、各大学で重視したものの違いといっ	う点で,
名古屋大学の石井先生と,東北大学の倉港	元先生に
お話をお伺いします。	
□ 名古屋大学では、共通テストや一般選抜の	
件に応じた入試の実施パターンの詳細な	
していたというお話をお伺いしました。こ	
について、石井先生、お話しいただけまっ	すでしょ
うか。【スライド遷移!】	
13:21	って、こ
紹介いただく。【資料お預かり済み】	₽ 10 / ₽ 2
● 2 分程度で、一般選抜のフローチャート、国際によって、「」	
選択肢、検討事項の一覧についてざっとさ	一説明い
ただく。	シッチ、ルセ
● 残り 1 分程度で, こうしたシミュレーショ 成するに至った背景などもお話しいただく	
	0
13:24	ンコン立口
門の先生方が総力を結集したとのお話で	
洗い出すことにより、関係各所と合意形	
効果もあったということでした。	~ c Ed δ
	置いてい l
たそうですが、いまの石井先生のお話とな	
ながら、倉元先生、お願いいたします。	
13:25 倉元 3 分程度 ● 東北大学で 4 月~6 月の間に企画されてい	った入試
広報、受験生への周知について、詳しく	
ి కాంగ్రెస్ కాంగ్రెస	

目安時刻	概要	話者	所要時間 (目安)	詳細
		(3213.11)	(12)	● 時間があれば、それに対する石井先生の受け止め
				をお伺いする。
13:28		寺尾	1分	□ 第1期の最後のトークテーマとして、選抜区分ごとの追試験の実施の可否について取り上げたいと思います。このトークテーマについては、名古屋大学の石井先生と、九大の立脇先生に伺ってみたいと思います。 □ 一般選抜の個別学力検査では、もう1セット試験問題を作成することで、なんとか追試験の機会を設けることができましたが、総合型・学校推薦型選抜・一般選抜の後期日程の面接などでは、追試験の機会を設けることが難しいケースもあった
				ようでした。まず,一般選抜後期の面接について, 石井先生,教えていただけますでしょうか。
13:29		石井	1分程度	■ 面接を含む一般選抜後期(医学部医学科)の追試 験について、当時の検討状況をご紹介いただく。
13:30		寺尾	10 秒	□ ありがとうございます。 □ 続いて,立脇先生,総合型・学校推薦型選抜の追 試験について,いかがでしょうか。
13:31		立脇	1 分程度	● 総合型・学校推薦型選抜の追試験について,当時 の検討状況をご紹介いただく。
				● 時間が余ったときの話題リスト 共通テストの(タイトな)成績提供日程について 共通テストの各日程の不確実さ など
13:32	第 2 期 説明	寺尾	2 分程度	 □ 先生方、貴重なお話をどうもありがとうございました。手探りの中で、各大学の方針を確かめていくプロセスがよく理解できました。 □ では、第2期に入りたいと思います。 □ 第2期の主な入試業務としては、入試広報活動、総合型・学校推薦型の募集要項の公表、出願受付などが挙げられます。
	人口 10 万人 あたり新規 陽性者数 (10/2)			ロ オンラインフォーラム第2回の日の新規陽性者数です。6 月末に比べて,感染が少しだけ拡大したように思われます。

目安時刻	概要	話者	所要時間	詳細
		(敬称略)	(目安)	
	オンライン			口 第2回では、総合型・学校推薦型選抜の具体的方
	フォーラム			法について情報共有しました。面接やグループデ
	で議論され			ィスカッションの実施の可否や方法,追試験の実
	たこと			施については,各大学でかなり悩まれたようでし
				た。また,オンラインを活用した選抜方法につい
				ては,工夫を凝らしつつ,多様な環境にある受験
				生への丁寧な配慮にも心を尽くされたというお
				話を伺いました。
13:34	第2期	寺尾	(1分)	口 この第2期の前半では、総合型・学校推薦型選抜
	トークテー			で特色のある対応をされた大学・学部の基礎情報
	マ			を整理します。この第2期では、選抜方法や日程
				などについてお伺いし,実際どうであったのかに
				ついては、第3期のところで改めてお伺いします。
				後半は、この第2期に東北大学で実施された高校
				へのアンケートの概要と結果について、ご紹介い
				ただきたいと思います。
				口 この期の最初は、愛媛大学の中村先生にお話をお
				伺いしたいと思います。愛媛大学では,総合型・
				学校推薦型選抜が 10 月上旬頃から始まることも
				あって,本日ご登壇の先生方の大学の中では最も
				早い判断が求められました。例年であれば,対面
				の面接やグループディスカッションなどを取り
				入れていたと思いますけれども,昨年度の選抜は
				どのような形で行ったのか,懸念事項はどういっ
				た点だったか,中村先生,お願いします。
13:35		中村	4 分程度	● 愛媛大学の総合型・学校推薦型選抜のうち, コロナ
				の影響を受けたものについてご紹介いただく。
				● 一足早めの判断が求められた社会共創学部の総合
				 型選抜の事例,グループディスカッションを中止
				 した医学部看護学科の学校推薦型選抜の事例を画
				面共有する。
13:39		寺尾	(30 秒)	
				ロ 九州大学でも,総合型選抜・学校推薦型選抜での
				選抜方法を工夫されたというお話をお伺いしま
				したが,立脇先生,詳しくお話をお伺いできます

目安時刻	概要	話者(敬称略)	所要時間 (目安)	詳細
				か。
13:40		立脇	3 分程度	● 第3期での説明に向けた,基本情報のご提供も含
				めてお話しいただく。
				● オンライン面接での選抜に変更したことを公表
				している選抜区分の事例について画面共有する。
13:43		寺尾	(30 秒)	ローどうもありがとうございます。
				ロ 名工大では、例年英語 4 技能試験のスコアを求め
				ていた一部の学部の学校推薦型選抜で,受験機会
				が減少したことを考慮した対応をとられました。
				その対応の具体と,背後にどういった議論があっ
				たのかといった点について,林先生,お願いしま
				す。
13:44		林	3分程度	● 第 3 期での説明に向けた、基本情報のご提供も含
				めてお話しいただく。
				● 選抜要項の出願要件について, 画面共有する。
13:47		寺尾	30 秒	ロ ありがとうございます。総合型・学校推薦型選抜
				の独自性を保ちながら、感染対策にも
				総合型・学校推薦型選抜で実際どうだったのかに
				ついては,第3期の冒頭でもさらに突っ込んでお
				伺いしたいと思います。
				口 続いて、第2期の後半のトークテーマとして、こ
				の時期に東北大学で緊急の高校調査を実施され
				たとのことで,その概要についてお話しいただき
				たいと思います。倉元先生お願いいたします。
13:48		倉元	4 分程度	● アンケートの方法と結果について、3分程度でご
				説明いただく。最後の1分程度で、アンケートか
				ら得られる示唆について言及いただく。
				● 時間が余ったときの話題リスト
	tota			入試広報(説明会や高校訪問) など
13:52	第3期	寺尾	2 分程度	口 倉元先生、どうもありがとうございました。当時
	説明			の高校からのリアルな声が伝わってきました。地
				方会場を望む声があったことも,とても印象的で , , ,
				□ 続いて、第3期へ進みたいと思います。 □ 10 日 い 10 日 の 2 世 は、
	L			口 10月から12月の第3期は、総合型・学校推薦型

目安時刻	概要	話者(敬称略)	所要時間 (目安)	詳細
				選抜の本番を迎えるとともに,一般選抜の学生募
				集要項の公表などが行われます。共通テスト関連
				では,出願受付が始まるとともに,試験監督者の
				説明会なども行われる時期です。
	人口 10 万人			ロ 第3回のオンラインフォーラムは12月25日に
	あたり新規			実施しました。第3波の魔の手が忍び寄り,この
	陽性者数			日の東京都では1日の新規陽性者数は890人でし
	(12/25)			た。日本全体で見ても,感染状況はかなり深刻な
				時期にあったことがわかります。
	オンライン			ロ 第3回のオンラインフォーラムでは、かなり厳し
	フォーラム			い感染状況下で共通テスト・個別学力検査を実施
	で議論され			することがほぼ確定的となった中で、本番を目前
	たこと			にした心配や不安の声をお伺いしました。
				ロ 例えば,体調不良の受験生がいた場合に,本試験
				での受験を取りやめて追試験に回ってもらう際
				の条件、試験監督の先生の配置などが挙げられま
				す。
				ロ 何よりも,入試に携わっていただく教職員の皆様
				におかれては、コロナがなかったとしても繁忙期
				なのに,例年以上に緊張感と追加の対応が求めら
				れ,相当の負担がかかるのではないかといったお
				話もお伺いしました。
13:54	第3期	寺尾	30 秒程度	ロ 入試シーズン直前のことについてお伺いする前
	トーク			に、総合型・学校推薦型選抜が実際どうだったの
				かについて,お話をお伺いします。
				ロ 先ほどは,選抜方法や日程などについてお話しい
				ただきましたが,当日はスムーズにいったのか,
				といった点や,受験生・大学の教職員の皆様・高
				校の先生方などの反応はどうだったのかなど,実
				際のところを詳しくお伺いしていきたいと思い
				ます。ここでも,第2期でお伺いした順にお話し
				いただきたいと思いますが、愛媛大学の中村先
				生,いかがでしたでしょうか。
13:55		中村	1分程度	● 選抜方法・区分等について,第2期で提供いただい
				た情報を受けながら、総合型選抜・学校推薦型選抜

目安時刻	概要	話者	所要時間	詳細
		(敬称略)	(目安)	が大きな混乱なく進行していたことについて、ご
				が入さな低乱なく進行していたことにういて, こ 紹介いただく。
13:56		寺尾	10 秒程度	
15.50		1) 尼	10 / 少生/文	ローめケガ とうとさいより。 ロー九州大学・立脇先生,お願いします。
13:57		立脇	3 分程度	■ 選抜方法・区分等について, 第2期で提供いただい
10.01			3万柱及	た情報を受けながら、総合型選抜・学校推薦型選抜
				のリアルをご紹介いただく。
14:00			l 10 秒	
11.00		17/2	10 //>	先生方の受け止めなどについてもお伺いできた
				らと思うのですが、いかがでしょうか。
14:01		l林	2 分程度	
14.01		71		抜・学校推薦型選抜のリアルをご紹介いただく。
14:03		寺尾	1 分程度	
11.00		77-2	1万庄/文	と思います。まず、名古屋大学の石井先生にお伺
				いしたいのですが、コロナ禍で迎えることが濃厚
				となった 12 月下旬,関係者にどういった戸惑い
				や不安があったのか,教えていただけますでしょ
				うか。
14:04		 石井	3 分程度	
			,	験室への考え方、共通テストの追試験受験資格な
				どについて、ご紹介いただく。
14:07		 寺尾	30 秒程度	└────────────────────────────────────
				 た受験生の試験室対応をお引き受けになる試験
				 監督の先生は,相当不安に思われただろうと感じ
				ました。
				□ その中で,愛媛大学では共通テストの直前期,独 □
				自の対策を実施したと伺いました。その具体とと
				もに,関係者にはどのような不安があり,こうし
				た対策に対する受け止めはどうだったのか,中村
				先生にお伺いしたいと思います。
14:08		中村	2 分程度	● 共通テスト直前での愛媛大学の対応,混乱がなか
				ったかどうか,等についてお伺いする。
14:10		寺尾	30 秒程度	ロ ありがとうございます。私がこのお話をお伺いし
				たときには,関係者の不安と覚悟を反映していた
				のだろうと思いました。

目安時刻	概要	話者	所要時間	詳細
口文的次)	1/4/5	(敬称略)	(目安)	RT /Nμ
				ロ 第3期の最後に、コロナ禍の混乱の中で生じた、
				東北大学での入試業務のヒヤリハット事例につ
				いて,倉元先生に詳しくお話をお伺いしたいので
				すが,お願いできますでしょうか。
14:11		倉元	4 分程度	● 東北大学で起こった入試ミスのお話をご紹介いた
				だく。
				● 入試業務がエキスパート業務であること, 感染症
				類似症状の出た職員の方がいらっしゃったこと等
				についてご紹介いただく。
14:15	第 4 期	寺尾	3分程度	ロ どうもありがとうございます。入試がエキスパー
	説明			ト業務の様相をもっていること,コロナ禍で対面
				での作業が難しかったことの影響の怖さを感じ
				ました。
				ロ さて,第4期に突入します。
				ロ ここでは、オンラインフォーラムの開催日ではな
				く,試験当日の感染状況をレビューします。
				口 共通テスト第1日程の初日は,最も深刻な状況で
				迎えることになりました。緊急事態宣言がご覧の
				都道府県に発令されており、史上初めて「緊急事
				態宣言下での共通テスト」となりました。
				口 2日目も同様で、多くの受験生が何事もなく試験
				を終えられたことを願うばかりでした。
				□ 第2日程です。第1日程よりも幾分感染状況は改
				善したようですが,それでも緊急事態下の試験だ
				ったことに変わりありません。
				ロ 特例追試験です。第1日程·第2日程との違いは,
				栃木県が緊急事態宣言発令区域から外れたこと
				です。
				口 国公立大学の個別学力検査本試験です。人口の少
				ない県では、感染状況がかなり改善したようです
				が、大都市圏は依然として、厳しい状況でした。
				口の個別学力検査追試験は、感染状況が再び厳しくなり
				ったようで,人口の多い都道府県は赤が強まって
				います。
	共通テスト			口 大学入学共通テストの受験者数を表にして示し

目安時刻	概要	話者(敬称略)	所要時間 (目安)	詳細
	の受験者数			ています。大多数の受験生は,希望する日程で試
				験を受けることができたようですが,一部の受験
				生は,希望の日程で試験を受けることがかなわ
				ず,後の日程で試験を受けたことがわかります。
				口 なお,赤字の部分すべてが新型コロナウイルス関
				連というわけではない点,ご了承ください。
				口 第4回のオンラインフォーラムは、年度が明けた
				4 月に実施しました。怒涛の中での入試シーズン
				を終えられた先生方に,共通テストや個別学力検
				査の実施の真に迫ったお話をお伺いしました。私
				自身,身の引き締まる思いをしたことをよく憶え
				ています。
				ロ 共通テストの第2日程をご担当いただいた大学で
				は、倍の業務負担が求められた点についても教え
				ていただきました。
13:18	第 4 期	寺尾	1 分程度	ロ 令和3年度入試は、怒涛の中で過ぎていきました。
	トーク			第4期は、試験実施のリアルをお伺いしながら、
				考えておいてよかったこと・予期しなかったこと
				という切り口で整理してみたいと思います。
				ロ まず,試験実施のリアルに迫るエピソードとし
				て,名古屋大学のお話がとても印象的でした。共
				通テストの実施の中で,濃厚接触者試験室の試験
				監督,追試験受験者への対応のリアルなお話を,
				ぜひ詳しくお伺いできないかと思うのですが,石
				井先生,いかがでしょうか。
14:19		石井	3 分程度	● 濃厚接触者試験室の試験監督の先生方(適宜交
				代)の話や,保健室対応,追試験受験者の試験時
				間の確保,検温拒否などについてお話しいただ
				< ∘
14:22		寺尾	30 秒程度	ロ どうもありがとうございます。とてもリアルで,
				他ではなかなか聞くことのできないお話をお伺
				いできました。
				口 次に,試験室つながりで,名工大の林先生にもお
				話をお伺いします。名工大では,体調不良者のた
[]	めの別室の設置を進めていく中で,試験監督の人

目安時刻	概要	話者(敬称略)	所要時間 (目安)	詳細
				員不足に至ったというお話をお伺いしました。こ
				のことについて,詳しくお話をお伺いできないで
				しょうか。
14:23		林	3 分程度	● 体調不良者のための試験室の増設,予備試験監督
				者の動員などについて、お話しいただく。
14:26		寺尾	30 秒程度	ロ 続いて、個別学力検査の追試験対応についても、
				お話をお伺いしたいと思います。各大学で対応を
				練り上げられたものと理解していますが,ふたを
				開けてみると,受験者がゼロ,あるいは,ごくわ
				ずかだった,ということだったのかなと思いま
				す。この点については,九州大学の立脇先生にお
				話しいただけないかと思うのですが,いかがでし
				ょうか。
14:27		立脇	3分程度	● 九州大学における個別学力検査の追試験につい
				て、情報共有いただく。また、可能であれば合否判
				定基準の話。
14:30		寺尾	10 秒	口 最後に,共通テストの特例追試験対応という観点
				で,名工大の林先生にお話をお伺いします。共通
				テストの特例追試験を受けた受験者が出願した
				場合に備えて,特例追試験受験者用の出願期間を
				別に設けられる中で、日程設定が非常にタイトだ
				ったというお話をお伺いしました。この点,名工
				大の林先生に教えていただきたいのですが,よろ
				しいでしょうか。
14:31		林	2分程度	● 特例追試験受験者の出願期間の話
				● 特例追試験受験者への入念な準備・受験者数ゼロ
				のコストベネフィット(総括での議論)につなげ
				る。
				時間が余った場合には、総括に時間を回す。
14:35	総 括	西郡		ローどうもありがとうございます。
				ロ それでは、ここからは佐賀大学の西郡先生にバト
				ンタッチして、「総括・緊急事態下の各大学の入試
				を俯瞰してわかること」と題して,ディスカッシ
				ョンを進めたいと思います。西郡先生,よろしく
				お願いいたします。

目安時刻	概要	話者	所要時間	詳細	
		(敬称略)	(目安)		
				(ここは自由に)	
				● 佐賀大学の様子	
				● 論点	
14:58		西郡		討論のむすび	
14:59		寺尾		口 先生方,本日は貴重なお話をどうもありがとうご	
				ざいました。緊急事態での入試をどう考えるかと	
				いう大きなテーマについて,どれも重要な論点を	
				ご議論いただいたものと認識しております。	
				ロ ここで、座談会本体は終了となります。この後、	
				30 分程度を目安に「情報交流」の時間を設けさせ	
				ていただきますので,この機会を積極的にご活用	
				いただければと思います。	
				ロ 私から2点,ご案内がございます。	
				1 点目は,情報交流への参加方法についてです。	
				情報交流は,このウェビナーではなく,別のミー	
				ティングルームで行います。情報交流にも参加を	
				希望される視聴者の皆様は,チャットにミーティ	
				ング URL を掲載しておりますので,そちらから	
				ミーティングルームへのご移動をお願いいたし	
				ます。ミーティングルームの情報は,先日配信さ	
				せていただきましたメールにも記載がございま	
				すので,ご活用ください。	
				ロ 2 点目は,アンケートのお願いです。このウェビ	
				ナーを退出されますと,自動的にアンケートに遷	
				移します。ご協力をどうぞよろしくお願いいたし	
				ます。	
				ロ それでは,座談会のほうは一旦閉じさせていただ	
				きます。情報交流会でお待ちしております。ご視	
				聴いただき,どうもありがとうございました。	

※ 情報交流会の進め方(案)

▶ ウェビナーから Zoom ミーティングルームへ移動。

当日,アルカディア市ヶ谷に集合する先生方は,事務局側でウェビナーからミーティングルーム に遷移するため,特に何もしなくてよい。

石井先生におかれては、事前に参加者にお送りしているメール中のミーティング情報(事務局

から石井先生へ事前にお送りをお願いします)か、チャットに掲示する URL を通じて、ミーティングルームに遷移する。

- ▶ 西郡先生への質問もあるかもしれないので、情報交流会の司会は寺尾が担当する。 「手を挙げる」ボタンを用いた質疑応答のみとし、Q&Aは引き続き用いない。 参加者は、司会者から指名されたら、カメラとマイクをオンにして、ご質問をお伺いする。 その際、ご所属とお名前を名乗っていただく。
- ➤ 万一,参加者の入りがゼロであっても,ポスターに記載の時刻 (15:30) までは開催する。 もし,「手を挙げる」参加者がいない場合,西郡先生ないしは寺尾からまずは質問を出す。 登壇者間のクロストークも積極的に行う。
- ▶ 15;30 以降も「手を挙げる」参加者がいた場合, 15:30 時点で手を挙げている質問者までで質問 の受付を終了する。

プレイバック座談会

大学入試におけるコロナ対策

令和3年度入試の舞台裏

- 「趣旨説明]
- ○内田照久 (大学入試センター研究開発部 教授)
- 「司会進行]
- ○寺尾尚大(大学入試センター研究開発部 助教)
- ○西郡 大(佐賀大学アドミッションセンター長)
- [座談会]
- ○倉元直樹(東北大学高度教養教育·学生支援機構 教授)
- ○林 篤裕(名古屋工業大学大学院工学研究科 教授)
- ○石井秀宗(名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授)
- ○中村裕行(愛媛大学・四国地区国立大学連合アドミッションセンター 准教授)
- ○立脇洋介(九州大学アドミッションセンター 准教授)
- [情報交流]

座談会終了後、Zoomにて質疑応答・情報交換を行います(希望者のみ)。

2021年

12/19^區

[時間]13:00~15:30 [開催方法]Zoom(オンライン)/定員400名

[主催] 科学研究費助成事業(科学研究費補助金)

基盤研究 (A) 課題番号21H04409

「コロナ禍の下での大学入試政策及び個別大学の

入試設計のための総合的大学入試研究

(略称(入試科研2))

※本企画は、「令和3年度 大学入試センター理事長裁量経費『大学入試の危機対応』研究プロジェクト」との共催です。

お申し込み・ お問い合わせ

東北大学入試科研2事務局

[mail] nyushi-kaken2_office@ihe.tohoku.ac.jp [web] http://www.adrec2.ihe.tohoku.ac.jp/ [お申し込みサイト] こちらのQRコードから お申し込みできます▶





シンポジウム当日

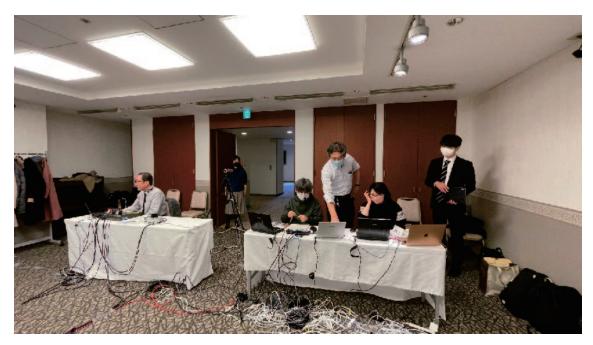


2021年12月19日(日)13:00~15:30

アルカディア市ヶ谷(私学会館)



オープニング前:設営・準備



実施本部のバックヤード



機器の操作方法の事前説明



音響技術担当

大学入試センター 研究開発部 内田照久



ホスト PC 管理・Zoom 配信・映像技術担当

東北大学 高度教養教育 学生支援機構 宮本友弘 久保沙織 横浜国立大学 教育学部 鈴木雅之

プレイバック座談会 開始



左から 大学入試センター 研究開発部 寺尾尚大 大学入試センター 研究開発部 内田照久



佐賀大学 アドミッションセンター 西郡 大



アルカディア市ヶ谷(メイン会場)



名古屋大学 (サテライト会場)

名古屋大学 教育基盤連携本部アドミッション部門 石井秀宗



左から 東北大学 高度教養教育 学生支援機構 倉元直樹 愛媛大学 四国地区国立大学連合アドミッションセンター 中村裕行



左から 九州大学 アドミッションセンター 立脇洋介 名古屋工業大学 大学院 工学研究科 林 篤裕

シンポジウム「大学入試におけるコロナ対策:令和3年度入試の舞台裏」

令和 4(2022)年 3 月発行

発行所 独立行政法人大学入試センター

〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23

連絡先 研究開発部 内田照久 印刷所 ヨシミ工産株式会社

